



令和7年度 麻委第3号
麻機遊水地植生調査等業務委託

報告書

令和8年1月

株式会社 環境アセスメントセンター

《 目 次 》

1. 業務概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 業務の名称等	1
1.3 業務内容	1
1.4 調査対象地	1
1.5 実施方針	4
1.6 業務実施手順	4
1.7 業務内容	4
1.7.1 計画準備	4
1.7.2 現地調査	4
1.7.3 現地調査結果のとりまとめ	5
1.7.4 報告書作成	5
1.7.5 有識者ヒアリング	6
1.8 業務工程	6
1.9 業務組織	6
1.10 打合せ協議	7
1.11 成果品の品質を確保するための計画	7
1.12 成果品の内容・部数	7
2. 現地調査結果実施概要	8
2.1 調査実施日	8
2.2 調査実施状況	8
3. 調査結果	9
3.1 植生調査	9
3.1.1 植生図作成調査	9
3.1.2 群落組成調査	29
3.2 特定外来生物（植物）調査	41
3.2.1 麻機遊水地における駆除活動	42
3.2.2 分布調査	45
3.2.3 優先的に除去対策を実施すべき場所	63
3.3 浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査	65
3.3.1 分布状況	65
3.3.2 今後の対応	76
4. 駆除方法と留意点	79
4.1 ナガエツルノゲイトウ	79
4.1.1 ナガエツルノゲイトウの対策目標	79
4.1.2 駆除方法の選定	79
4.1.3 駆除推奨時期の検討	80
4.1.4 除去対策を実施する場所	84
4.1.5 実施上の留意点	85

4.2 オオフサモ	87
4.2.1 オオフサモの対策目標	87
4.2.2 駆除方法の選定	88
4.2.3 駆除推奨時期の検討	89
4.2.4 除去対策を実施する場所	92
4.2.5 実施上の留意点	92
5. 有識者ヒアリング	93
6. 課題・提案	95
6.1 ナガエツルノゲイトウの詳細な分布調査（巴川水系）	95
7. 現地調査計画	97

■資料編

資料 1 現地調査確認種目録

資料 2 群落組成調査票 1

資料 3 群落組成調査票 2

資料 4 写真票（群落組成調査）

資料 5 特定外来生物記録票

資料 6 麻機遊水地ネイチャーポジティブ産官学民連携チームナガエツルノゲイトウに関する
アンケート結果（期間：令和 8 年 1 月 18 日～令和 8 年 1 月 25 日）

資料 7 打合せ記録簿

資料 8 有識者ヒアリング議事録

1. 業務概要

1.1 調査目的

本業務は、麻機遊水地の自然再生事業の推進にあたり、自然環境に関するデータの蓄積の一環として、植生調査（秋）及び麻機遊水地周辺にて確認されている特定外来生物（植物）を対象とした現地調査を実施することを目的とした。

1.2 業務の名称等

業務の名称等は以下のとおりである。

業務委託名：令和7年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査等業務委託

委託者：麻機遊水地保全活用推進協議会

〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号

電話 054-286-9364（静岡県静岡土木事務所河川改良課）

受託者：株式会社環境アセスメントセンター

〒420-0047 静岡市葵区清閑町13-12

電話 054-255-3650

業務期間：令和7年7月24日～令和8年1月30日

1.3 業務内容

本業務の業務内容は、次のとおりとした。

■計画準備

■現地調査

植生調査（植生図作成調査、群落組成調査）（麻機遊水地第1工区）：秋1回（9～10月）

特定外来生物（植物）調査（ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ）（麻機遊水地第2-1工区、第3工区）

浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査（ナガエツルノゲイトウ）（浅畑川上流域（集水域））

■現地調査結果のとりまとめ

植生調査（植生図、群落組成調査票、群落断面模式図の作成）

特定外来生物（植物）調査（ナガエツルノゲイトウ、オオフサモの分布状況の整理、除去対策場所及び駆除方法の提案）

浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査（ナガエツルノゲイトウの分布状況の整理、今後の対応策検討）

■報告書作成

■有識者ヒアリング

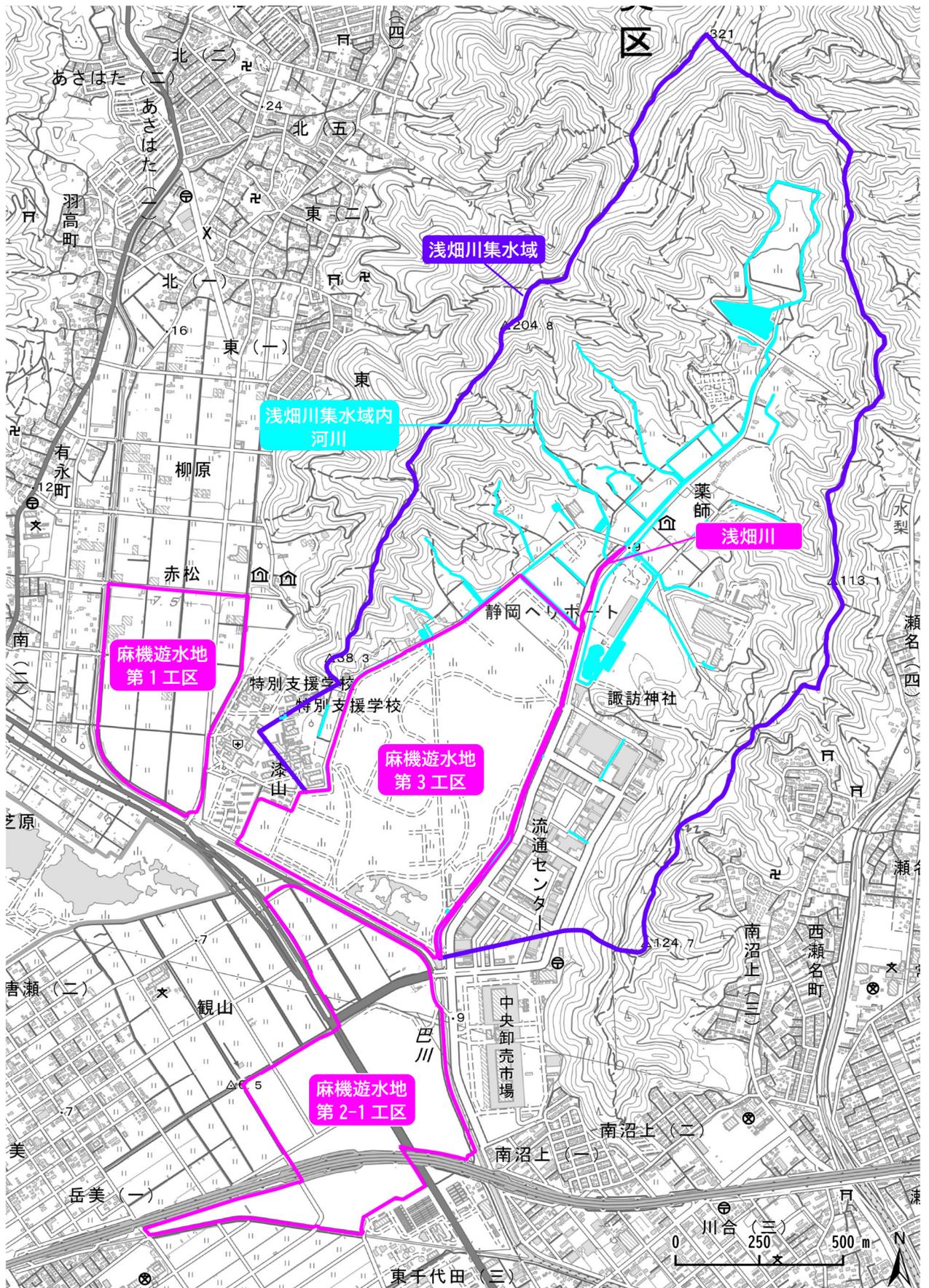
計1回（調査結果とりまとめ時）

■打合せ協議

計2回（業務着手時、完了時）

1.4 調査対象地

調査対象地は麻機遊水地第1工区（22ha）、第2-1工区（51ha）、第3工区（55ha）及び浅畑川上流域（集水域を基本とする）を対象とした（図1.4.1、図1.4.2）。



(資料) 浅畑川集水域：国土数値情報(流域界・非集水域データ)(国土交通省)(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gmlold/datalist/gmlold_KsjTplt-W12.html)を加工し作成
 浅畑川集水域内河川：基盤地図情報(水崖線)(国土地理院)(<https://service.gsi.go.jp/kiban/app/>)を加工し作成

図 1.4.1 調査対象地(麻機遊水地第1工区(22ha)、第2-1工区(51ha)、第3工区(55ha)及び浅畑川上流域(集水域))

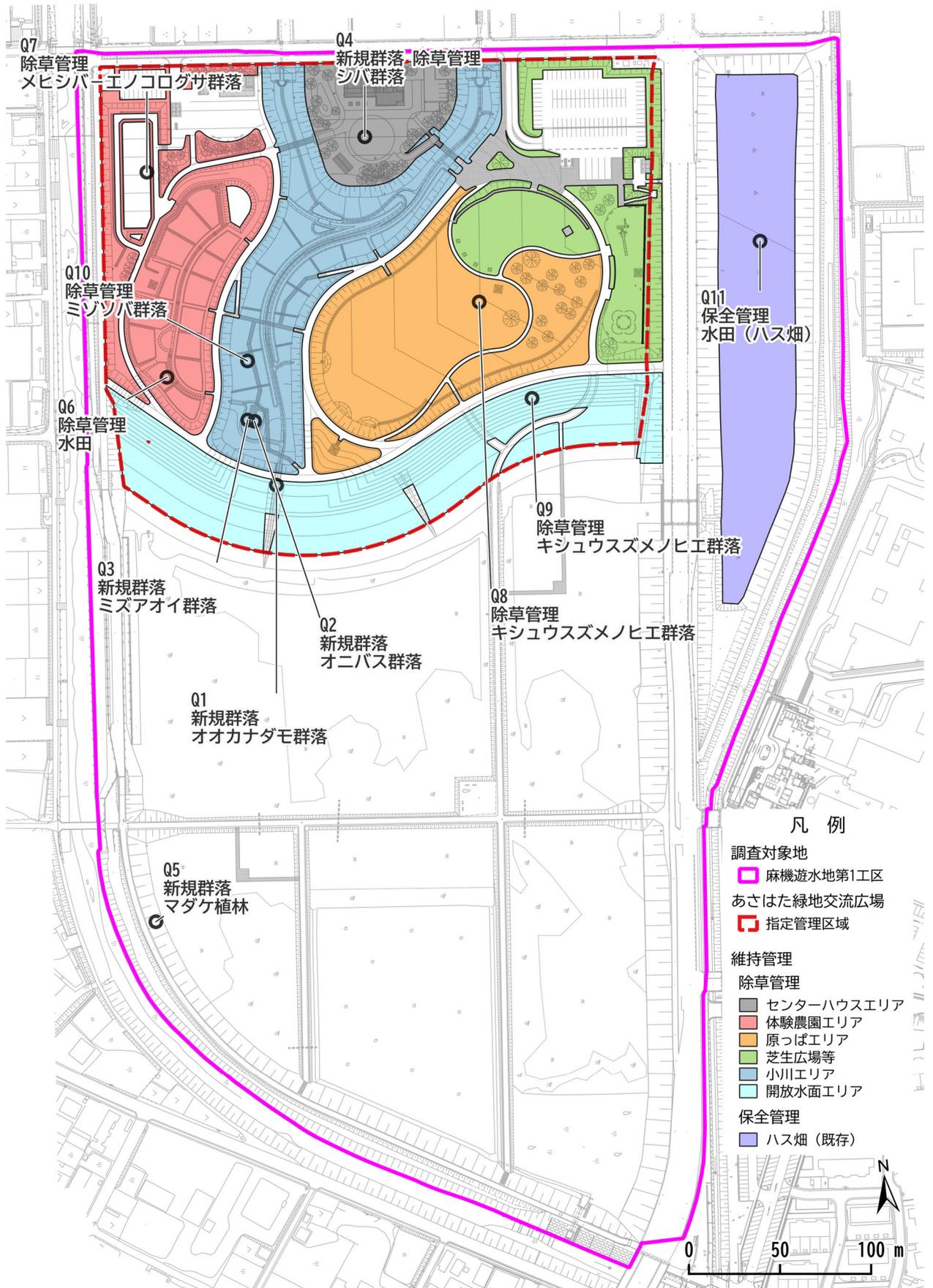


図 1.4.2 麻機遊水地第1工区 (22ha) における群落組成調査地点

1.5 実施方針

本業務は、「麻機遊水地植生調査等業務委託契約書」、「令和7年度 麻機遊水地植生調査等業務委託 特記仕様書」、「令和7年度 実施設計書（委託名：令和7年度麻委第3号麻機遊水地植生調査等業務委託）」、「土木工事共通仕様書（静岡県交通基盤部監修，令和6年9月1日施行）」に基づき実施した。

1.6 業務実施手順

本業務の実施手順は以下に示すとおりである。

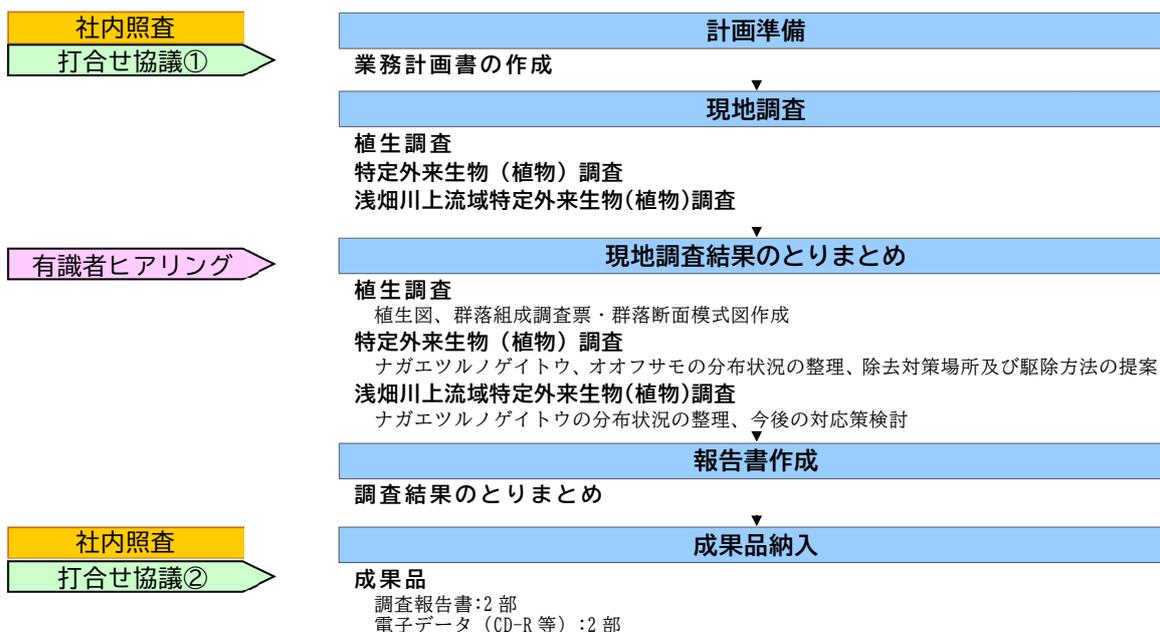


図 1.6.1 業務実施手順

1.7 業務内容

1.7.1 計画準備

本業務の目的・内容を理解・把握した上で、業務の着手に先立ち、業務の実施方針・工程等を確認し、「業務計画書」を作成し、発注者と協議し、承認を得た。

1.7.2 現地調査

(1) 植生調査

1) 植生図作成調査

麻機遊水地第1工区を対象に最新の空中写真をもとに判読素図を作成し、現地踏査により判読素図を修正した。修正した判読素図をもとにして植生図を作成した（表 1.7.1）。なお、群落名は「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト（植物群落リスト、令和7（2025）年8月8日更新）」（<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm>）を基準とした。

表 1.7.1 現地調査時期・調査内容

現地調査時期	秋1回（9～10月）
調査内容	植生図作成調査、群落組成調査（令和2年度の植生調査で未確認であった新規群落、植生の維持管理が実施されている箇所等）

2) 群落組成調査

麻機遊水地第1工区内において、植生が典型的に発達している群落の中から、できるだけ均質な場所を選定し、コドラートを設置して調査を実施した。コドラートの面積は、「平成28年度河川水辺の国勢調査マニュアル[河川版]（河川環境基図作成調査編）」（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課,平成28年1月改訂）を参考とした。

調査では、植生の階層構造、構成種および各種の被度・群度を把握した（表1.7.1）。調査の対象は、令和2年度の植生調査（令和2年度 麻委第2号麻機遊水地植生調査業務委託 報告書）で未確認であった新規群落や、植生の維持管理が実施されている箇所などとした。なお、群落組成調査地点については、GPSにより位置情報を記録した。

(2) 特定外来生物（植物）調査

麻機遊水地第2-1工区、第3工区を対象に、過年度調査において生育が確認され対応の必要性和緊急性が高い特定外来生物のナガエツルノゲイトウ、オオフサモについて、分布状況調査を実施した（表1.7.2）。

表 1.7.2 現地調査時期・調査内容

現地調査時期	秋1回（9～10月）
調査内容	特定外来生物（植物）調査

(3) 浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査

麻機遊水地第3工区に隣接する浅畑川では特定外来生物のナガエツルノゲイトウが確認されている。これらの供給源や発生箇所の特定のため、浅畑川上流域(集水域を基本とする)について現地調査を実施した。

1.7.3 現地調査結果のとりまとめ

(1) 植生調査

現地調査結果をとりまとめ、植生図、群落組成調査票と群落断面模式図を作成した。なお、植生図についてはGISソフトを用いて作成した。

また、過年度に策定した現地調査計画を更新した。

(2) 特定外来生物（植物）調査

現地調査結果をとりまとめ、特定外来生物の分布状況を整理した。また、優先的に除去対策を実施すべき場所、駆除方法について提案した。

(3) 浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査

現地調査結果をとりまとめ、ナガエツルノゲイトウの分布状況を整理した。また、今後の対応策を検討した。

1.7.4 報告書作成

上記の調査結果をとりまとめ、報告書を作成した。

1.10 打合せ協議

本業務の打合せ実施時期は、以下の2回とした。

- ・業務着手時（令和7（2025）年8月8日）
- ・完了時（令和8（2026）年1月30日）

1.11 成果品の品質を確保するための計画

当社の品質マニュアル（ISO9001：2015）に基づいた適切な工程管理を行い、成果品の品質確保に努めた。

1.12 成果品の内容・部数

業務完了時は、成果品として以下のものを提出した。提出先は、麻機遊水地保全活用推進協議会（静岡県交通基盤部静岡土木事務所河川改良課）とした。

- | | |
|---------------|----|
| ・調査報告書 | 2部 |
| ・電子データ（CD-R等） | 2部 |

2. 現地調査結果実施概要

2.1 調査実施日

調査実施日は以下に示すとおりである。

表 2.1.1 調査実施日

項目		調査時期・回数	調査実施日	調査エリア
植生調査	植生図作成	秋 1 回 (9~10 月)	9 月 18 日	麻機遊水地第 1 工区
	群落組成調査		9 月 25 日	
特定外来生物 (植物) 調査		秋 1 回 (9~10 月)	9 月 19 日	麻機遊水地第 3 工区
			9 月 24 日	麻機遊水地第 2-1 工区
			9 月 25 日	
			10 月 15 日	
浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査		秋 1 回 (9~10 月)	9 月 4 日	浅畑川上流域 (集水域)
			9 月 12 日	浅畑川
			10 月 30 日	

2.2 調査実施状況

調査実施状況は以下に示すとおりである。

植生調査 (植生図作成)



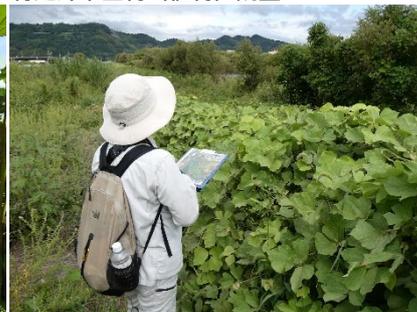
(R7 (2025) /9/18 撮影)

植生調査 (群落組成調査)



(R7 (2025) /9/25 撮影)

特定外来生物 (植物) 調査



(R7 (2025) /9/19 撮影)

特定外来生物 (植物) 調査



(R7 (2025) /9/24 撮影)

特定外来生物 (植物) 調査



(R7 (2025) /9/25 撮影)

特定外来生物 (植物) 調査



(R7 (2025) /10/15 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査



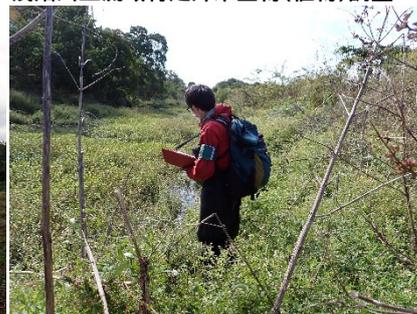
(R7 (2025) /9/4 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査



(R7 (2025) /9/12 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物(植物)調査



(R7 (2025) /10/30 撮影)

写真 2.2.1 現地調査実施状況

3. 調査結果

3.1 植生調査

3.1.1 植生図作成調査

(1) 概要

本年度(令和7(2025)年度)の調査で確認した群落区分は計**38区分**で、河辺植生域の群落が26群落、造林地が3群落、耕作地が3群落、施設地等が5区分、開放水面となった(表3.1.1)。なお、群落名は「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト(植物群落リスト、令和7(2025)年8月8日更新)」を基準としている。このうち、造林地として区分した「シダレヤナギ植林」はシダレヤナギが逸出して成立した群落であり、「マダケ植林」は自然侵入したマダケの優占する群落であり、人為的に植林されたものではない。

同工区の既往調査(令和2(2020)年度)(計39区分)と比べ、群落区分に大きな変化はなかったが、**河辺植生域の群落数は減少していた(R2:29→R7:26)**。また、同工区の既往調査(令和2(2020)年度)では確認されておらず、本年度(令和7(2025)年度)の調査で**新たに確認した群落は計6群落(オオカナダモ群落、オニバス群落、ミズアオイ群落、シバ群落、マダケ植林、公園・グラウンド)**であった(詳細は、3.1.2 群落組成調査を参照)。

(大分類)

大分類では、河辺植生域(約14.6ha、全体の約63%)が最も多く、次いで施設地等(約4.0ha、同約18%)、開放水面(約2.1ha、同約9%)となり、耕作地や造林地は少なかった。また、既往調査(令和2(2020)年度)に比べ、河辺植生域の面積・割合がやや減少し(R2:15.4ha、67%→R7:14.6ha、63%)、施設地等が増加(R2:3.7ha、16%→R7:4.1ha、18%)するなどの変化があった。特に造林地の増加(R2:0.3ha、1%→R7:1.0ha、5%)により、**大分類の構成比がわずかに変化した**。

(基本分類)

基本分類では、単子葉草本群落(その他の単子葉草本群落)(約7.1ha、全体の約31%)が最も多く、次いで人工構造物(約3.7ha、同約16%)、単子葉草本群落(オギ群落)(約2.3ha、同約10%)の順となった。既往調査(令和2(2020)年度)で占有面積が大きかった群落では、主に**1年生草本群落、単子葉草本群落(ヨシ群落)、単子葉草本群落(その他の単子葉草本群落)、人工構造物は増加し、グラウンドなどが減少した**。特に**多年生広葉草本群落の減少が著しかった**。一方、占有面積の小さかった群落では、主に**ヤナギ高木林、植林地(竹林)、植林地(その他)が増加していた**。なお、人工構造物(主に建物や道路など)の面積増加とグラウンドなど(主に人工裸地)の減少は、本工区における公園整備が影響している。

(群落単位)

群落単位では、分布面積が最も大きい、第一優占群落は**道路**(約3.5ha、全体の約15%)で、次いで**ヒメガマ群落**(約3.3ha、同14%)、**オギ群落**(約2.3ha、同10%)、**ヨシ群落**(約1.8ha、同8%)、**キシウスズメノヒエ群落**(約1.6ha、同7%)、となり、これらが全体の約54%を占めていた。これら以外に、植物の繁茂による影響を受けやすい**開放水面**(約2.1ha、同9%)はオギ群落に次いで大きかった。**分布面積が大きな群落は既往調査(令和2(2020)年度)と概ね同じ傾向であった**。ただし、既往調査(令和2(2020)年度)で分布面積の大きかった**セイタカアワダチソウ群落**(約2.1ha、同9%)が著しく**減少(90%減、約0.2ha、同1%)**していた。

表 3.1.1 植物群落一覧（麻機遊水地第1工区）（網掛けは新規確認群落）

大分類	基本分類	群落表示コード	群落名	外来	面積 (ha)		備考	
					R2 (2020)	R7 (2025)		
河辺植生域	沈水植物群落	011	オオカナダモ群落	●	—	0.0003	新規	
	浮葉植物群落	0214	オニバス群落		—	0.003	新規	
		022	ヒシ群落			0.06	—	
	1年生草本群落	051	ミズアオイ群落			—	0.003	新規
		058	ミゾソバ群落			0.24	0.08	
		0510	オオイヌタデーオオクサキビ群落			0.11	0.53	
		0512	オオオナモミ群落	●		0.12	0.01	
		0513	コセンダングサ群落	●		0.62	0.03	
		0514	メヒシパーエノコログサ群落			0.93	0.73	
		0516	オオブタクサ群落	●		0.03	0.29	
		0525	カナムグラ群落			0.01	0.59	
		0540	ホソバヒメミソハギ群落	●		0.01	—	
		多年生広葉草本群落	067	アレチハナガサ群落	●		0.06	—
	068		セイタカアワダチソウ群落	●		2.10	0.21	
	0610		ヤブガラシ群落			0.06	—	
	0612		ギンギン群落			0.07	—	
	0614		カゼクサーオオバコ群集			0.01	—	
	06601		チドメグサ群落			0.07	—	
	単子葉草本群落（ヨシ群落）	071	ヨシ群落			1.58	1.78	
		073	セイタカヨシ群落			0.04	0.04	
	単子葉草本群落（オギ群落）	091	オギ群落			2.33	2.34	
	単子葉草本群落（その他の単子葉草本群落）	101	ウキヤガラマコモ群集			0.12	0.11	
		103	カンガレイ群落			0.02	0.01	
		104	ヒメガマ群落			3.56	3.29	
		1020	キシウスズメノヒエ群落	●		1.64	1.60	
		1031	タチスズメノヒエ群落	●		0.42	0.93	
		1032	シマスズメノヒエ群落	●		0.53	0.11	
		1039	シバ群落			—	0.18	新規
		1041	ススキ群落			0.02	0.68	
		1060	ジュズダマ群落	●		0.22	0.15	
		ヤナギ高木林	125	タチヤナギ群集			0.12	0.52
	127		ジャヤナギアカメヤナギ群集			0.16	0.30	
	128		ジャヤナギアカメヤナギ群集（低木林）			0.16	0.04	
造林地	植林地（竹林）	182	マダケ植林		—	0.02	新規	
	植林地（その他）	204	シダレヤナギ植林	●	0.11	0.59		
		2010	植栽樹林群			0.17	0.43	
耕作地	畑	222	畑地（畑地雑草群落）		0.01	0.04		
	水田	23	水田		0.02	0.07		
		232	水田（ハス畑）		1.54	1.16		
施設地	グラウンドなど	251	公園・グラウンド		—	0.15	新規	
		253	人工裸地		1.01	0.18		
	人工構造物	261	構造物		0.07	0.15		
		262	コンクリート構造物		0.04	0.05		
		263	道路		2.60	3.52		
水面	開放水面	28	開放水面		2.00	2.09		
計 44 区分				12 群落	23.00	23.00		
				39 群落	37 群落	4 群落		

注) 群落名は「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト（植物群落リスト、令和7（2025）年8月8日更新）」（<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm>）を基準とした。「シダレヤナギ植林」はシダレヤナギが逸出して成立した群落であり、「マダケ植林」は自然侵入したマダケの優占する群落であり、人為的に植林されたものではない。

注) 外来：外来種（概ね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物（国外外来種））が優占する群落



図 3.1.1 植生図及び群落組成調査実施箇所（麻機遊水地第1工区）

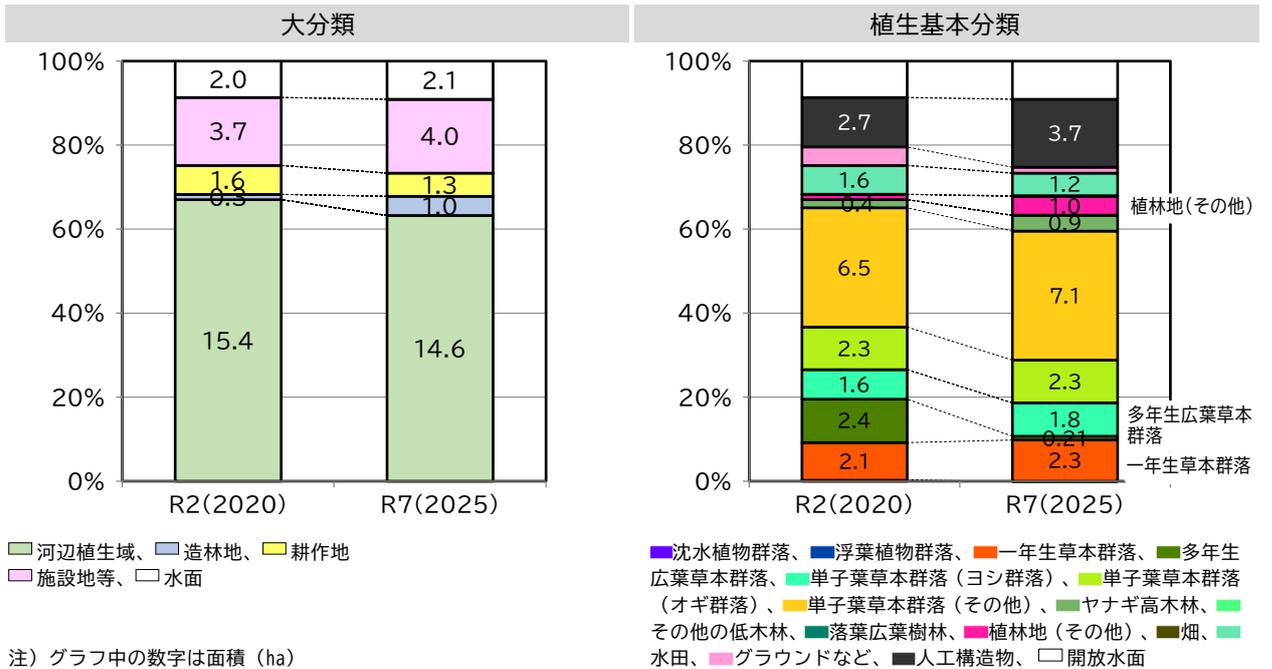


図 3.1.2 植生面積 (大分類、基本分類) と経年変化 (麻機遊水地第 1 工区)



写真 3.1.1 本年度(令和 7 (2025) 年度)で確認した群落区分 (麻機遊水地第 1 工区) (1 / 2)

ミゾソバ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

セイタカアワダチソウ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

ヨシ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

セイタカヨシ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

オギ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

ウキヤガラマコモ群集



(R7 (2025) /9/18 撮影)

カンガレイ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

ヒメガマ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

キシウスズメノヒエ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

タチスズメノヒエ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

シマスズメノヒエ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

シバ群落



(R7 (2025) /9/25 撮影)

ススキ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

ジュズダマ群落



(R7 (2025) /9/18 撮影)

タチヤナギ群集



(R7 (2025) /9/18 撮影)

写真 3.1.1 本年度(令和7(2025)年度)で確認した群落区分(麻機遊水地第1工区)(2/3)

ジャヤナギーアカメヤナギ群集



(R7 (2025) /9/18 撮影)

ジャヤナギーアカメヤナギ群集 (低木林) マダケ植林



(R7 (2025) /9/18 撮影)



(R7 (2025) /9/18 撮影)

植栽樹林群



(R7 (2025) /9/18 撮影)

シダレヤナギ植林



(R7 (2025) /9/18 撮影)

畑地 (畑地雑草群落)



(R7 (2025) /9/18 撮影)

水田



(R7 (2025) /9/18 撮影)

水田 (ハス畑)



(R7 (2025) /9/18 撮影)

公園・グラウンド



(R7 (2025) /9/18 撮影)

人工裸地



(R7 (2025) /9/18 撮影)

構造物



(R7 (2025) /9/18 撮影)

コンクリート構造物



(R7 (2025) /9/18 撮影)

道路



(R7 (2025) /9/18 撮影)

開放水面



(R7 (2025) /9/18 撮影)

写真 3.1.1 本年度(令和7 (2025) 年度)で確認した群落区分 (麻機遊水地第1工区) (3 / 3)

(2) 植生タイプとその変化

既往調査（令和 2（2020）年度）及び本年度（令和 7（2025）年度）に確認した計 37 区分のうち、河辺植生域及び造林地（植栽樹林群を除く）の分類に該当する 27 群落を対象に、その成立環境に基づいて、沈水、浮葉、抽水、湿性、乾性、林縁、河辺林、山地林の計 8 つの植生タイプに区分した。

（植生タイプ別の優占状況）

分布面積（本年度（令和 7（2025）年度））が最も大きい（優占順位第 1 位）のは抽水タイプ（主な群落はヒメガマ群落、ヨシ群落）で、次いで湿性タイプ（優占順位第 2 位）（同オギ群落、キシユウスズメノヒエ群落）、乾性タイプ（優占順位第 3 位）（同タチスズメノヒエ群落（外）、メシババーエノコログサ群落、ススキ群落）、河辺林タイプ（優占順位第 4 位）（同シダレヤナギ植林（外）、タチヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集）の順となった。これら以外の植生タイプは分布面積が小さく、その分布場所も限定的であった。一方、群落数は乾性タイプ、湿性タイプ、抽水タイプ、河辺林タイプの順となっており、分布面積での並びとは必ずしも一致していなかった。

（経年変化）

分布面積の大きい植生タイプの既往調査（令和 2（2020）年度）と本年度（令和 7（2025）年度）の変化をみると、優占順位第 2 位までの抽水タイプと湿性タイプに大きな変化は無かった。一方、優占順位第 3 位の乾性タイプは減少（35%減）し、優占順位第 4 位の河辺林タイプは増加（160%増）していた。このような変化に加え、林縁タイプの増加や山地林タイプの新規確認といった植生の変化は、本工区において樹林化が進行している可能性を示唆するものである。

表 3.1.2 これまでに確認した植生タイプ別植物群落（麻機遊水地第 1 工区）（網掛けは分布面積・群落数の多い群落、該当群落の並びは面積の多い順）

植生タイプ	面積 (R7)	群落数	該当群落
抽水	5.19ha	5 群落	ヒメガマ群落、ヨシ群落、ウキヤガラマコモ群集、カンガレイ群落、ミズアオイ群落（新）
湿性	4.73ha	6 群落	オギ群落、キシユウスズメノヒエ群落（外）、オオイヌタデーオオクサキビ群落、ジュズダマ群落（外）、ミゾソバ群落、セイタカヨシ群落
乾性	3.18ha	8 群落	タチスズメノヒエ群落（外）、メシババーエノコログサ群落、ススキ群落、オオブタクサ群落（外）、セイタカアワダチソウ群落（外）、シバ群落（新）、シマスズメノヒエ群落（外）、コセンダングサ群落（外）、オオオナモミ群落（外）
河辺林	1.45ha	4 群落	シダレヤナギ植林（外）、タチヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集（低木林）
林縁	0.59ha	1 群落	ヤブガラシ群落
山地林	0.02ha	1 群落	マダケ植林（新）
浮葉	0.003 ha	1 群落	オニバス群落（新）
沈水	0.0003 ha	1 群落	オオカナダモ群落（外）（新）

注) 植生タイプ

沈水：水中に生育する植物が優占する群落、浮葉：葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落

抽水：抽水植物が優占する群落、湿性：湿った場所に生育する植物が優占する群落

乾性：適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落、林縁：林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落

河辺林：洪水などの影響を受ける不安定な河辺（水辺）に生育する樹木が優占する森林（群落）

山地林：山付き区間などに成立する森林（群落）

注) (外)：外来種（概ね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物（国外外来種））が優占する群落

注) (新)：本年度（令和 7（2025）年度）で新たに確認した群落

表 3.1.3 植生タイプ別・植物群落別の面積の経年変化（麻機遊水地第1工区）

注) タイプ・群落の並びは令和7（2025）年度時点での面積の大きい順

分類	植生タイプ	群落名	外来	群落数		面積 (ha)		増減率 (R2 比)	
				R2 (2020)	R7 (2025)	R2 (2020)	R7 (2025)		
河辺植生域 ※一部造林地含む	抽水	ヒメガマ群落		4	5	3.56	3.29	-8%	
		ヨシ群落				1.58	1.78	13%	
		優占順位第1位	ウキヤガラ-マコモ群集				0.12	0.11	-10%
		カンガレイ群落				0.02	0.01	-71%	
		ミズアオイ群落					0.003	新規	
						5.28	5.19	-2%	
	湿性	優占順位第2位	オギ群落		8	6	2.33	2.34	0%
			キシウスズメノヒエ群落	●			1.64	1.60	-3%
			オオイヌタデ-オオクサキビ群落				0.11	0.53	371%
			ジュズダマ群落	●			0.22	0.15	-31%
			ミゾソバ群落				0.24	0.08	-68%
			セイタカヨシ群落				0.04	0.04	-6%
			チドメグサ群落				0.07		-100%
			ホソバヒメミソハギ群落	●			0.01		-100%
						4.66	4.73	2%	
	乾性	優占順位第3位	タチスズメノヒエ群落	●	11	8	0.42	0.93	123%
			メシバ-エノコログサ群落				0.93	0.73	-21%
			ススキ群落				0.02	0.68	2941%
			オオブタクサ群落	●			0.03	0.29	792%
			セイタカアワダチソウ群落	●			2.10	0.21	-90%
シバ群落							0.18	新規	
シマスズメノヒエ群落			●			0.53	0.11	-80%	
コセンダングサ群落			●			0.62	0.03	-95%	
オオオナモミ群落			●			0.12	0.01	-93%	
ギシギシ群落						0.07		-100%	
アレチハナガサ群落			●			0.06		-100%	
カゼクサー-オオバコ群集				0.01		-100%			
					4.91	3.18	-35%		
河辺林	優占順位第4位	シダレヤナギ植林	●	4	4	0.11	0.59	417%	
		タチヤナギ群集				0.12	0.52	339%	
		ジャヤナギ-アカメヤナギ群集				0.16	0.30	81%	
		ジャヤナギ-アカメヤナギ群集 (低木林)				0.16	0.04	-73%	
					0.56	1.45	160%		
林縁		カナムグラ群落		2	1	0.01	0.59	7881%	
		ヤブガラシ群落				0.06		-100%	
					0.07	0.59	792%		
浮葉		ヒシ群落		1	1	0.06		-100%	
		オニバス群落					0.003	新規	
					0.06	0.00	-95%		
山地林	マダケ植林			0	1		0.02	新規	
沈水	オオカナダモ群落	●		0	1		0.0003	新規	
施設地等		道路		3	4	2.60	3.52	36%	
		人工裸地				1.01	0.18	-82%	
		構造物				0.07	0.15	110%	
		公園・グラウンド					0.15	新規	
					3.68	4.00	9%		
水面	開放水面			1	1	2.00	2.09	4%	
		耕作地	水田 (ハス畑)		3	3	1.54	1.16	-25%
			水田				0.02	0.07	177%
	畑地 (畑地雑草群落)				0.01	0.04	205%		
人工構造物	コンクリート構造物			1	1	0.04	0.05	31%	
造林地 (上記以外)	植栽樹林群			1	1	0.17	0.43	151%	

注) 外来: 外来種 (概ね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物 (国外外来種)) が優占する群落
 注) 植生タイプ: 沈水: 水中に生育する植物が優占する群落/浮葉: 葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水: 抽水植物が優占する群落/湿性: 湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性: 適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁: 林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林: 洪水などの影響を受ける不安定な河辺 (水辺) に生育する樹木が優占する森林 (群落)

注) <0.01: 分布面積が 0.01ha 未満

1) 増加傾向にある植生タイプ

増加傾向にある植生タイプとして、河辺林タイプが該当した。本タイプの本年度(令和7(2025)年度)の分布面積(0.6ha)は、既往調査(令和2(2020)年度)(1.5ha)に比べて約160%増加した。本タイプには4つの群落が含まれるが、これらのうちジャヤナギーアカメヤナギ群集(低木林)を除く3群落(シダレヤナギ植林、タチヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集)の分布面積が増加し、特に**シダレヤナギ植林とタチヤナギ群集の増加が著しかった。**

シダレヤナギ植林の優占種であるシダレヤナギは、やや湿気のある肥沃地を好むが、水湿に耐えて良く生育し、乾燥気味のところでも良く生育する特性を有している(北海道造園緑化建設業協会¹⁾)。このため、冠水頻度が低く、肥沃な湿性に成立するオギ群落(湿性タイプ)や乾性地に成立するセイタカアワダチソウ群落(乾性タイプ)を中心に、一部はオギ群落に隣接した、やや比高の高い場所のヨシ群落(抽水タイプ)から変化したものが多かった。本工区のあさはた緑地交流広場の指定管理区域の除草管理を行っている場所や指定管理区域外には、シダレヤナギ群集に変化しやすい群落・立地が広く分布している。このため、今後の遷移の進行に伴い、**シダレヤナギ群集の分布範囲が拡大する可能性がある。**

一方、タチヤナギ群集は主にヨシ群落(抽水タイプ)やミゾソバ群落(湿性タイプ)から変化したものが多く、この点はシダレヤナギ群集とは異なっていた。これは優占種であるタチヤナギの、流れが緩やかになることで、粒径の細かい、砂質～泥質の堆積物の厚い立地に大きな群落を形成する(石川 1996²⁾)という立地選好性と、乾燥地には侵入しにくい、長期的な冠水に耐えることができる(長坂 1996³⁾)という特性によるところが大きい。本工区のあさはた緑地交流広場の指定管理区域内外にはこれらの群落が広く分布しているため、今後の遷移の進行に伴い、**タチヤナギ群落の分布範囲が拡大する可能性がある。**

シダレヤナギ植林やタチヤナギ群集の分布面積が令和2(2020)年度から令和7(2025)年度にかけて著しく増加したことは、今後、**本工区での樹林化の進行がより加速する可能性を示唆するものであった。**

¹⁾ 北海道造園緑化建設業協会ホームページ (<http://www.hokuzoukyou.or.jp/zukan/species/t038.html>) 令和7(2025)12月5日視認

²⁾ 石川慎吾(1983)東北地方の河辺に発達するヤナギ林について. 高知大学学術研究報告 自然科学編(31)95-104.

³⁾ 長坂有(1996)河畔に生えるヤナギ類. 光珠内季報(101)2-17.

表 3.1.4 シダレヤナギ植林、タチヤナギ群集に変化した植物群落（網掛けは変化面積の大きい群落）

シダレヤナギ植林

令和 2 (2020) 年度		
植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
湿性	オギ群落	0.15
	オオイヌタデーオオクサキビ群落	0.02
	キシウズズメノヒエ群落	<0.01
	ミゾソバ群落	<0.01
抽水	ヨシ群落	0.09
	ヒメガマ群落	0.06
乾性	セイタカアワダチソウ群落	0.12
	シマスズメノヒエ群落	<0.01
河辺林	ジャヤナギーアカメヤナギ群集	0.05
	シダレヤナギ植林	0.03
	タチヤナギ群集	0.02
	ジャヤナギーアカメヤナギ群集 (低木林)	0.02
開放水面	開放水面	0.02
施設地等	道路	0.01
林縁	カナムグラ群落	<0.01



令和 7 (2025) 年度	
群落名/分布面積	
シダレヤナギ植林 0.59ha	

タチヤナギ群集

令和 2 (2020) 年度		
植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
湿性	ミゾソバ群落	0.14
	オギ群落	0.06
	オオイヌタデーオオクサキビ群落	0.01
	セイタカヨシ群落	<0.01
抽水	ヨシ群落	0.14
	カンガレイ群落	0.02
	ヒメガマ群落	<0.01
河辺林	ジャヤナギーアカメヤナギ群集 (低木林)	0.06
	タチヤナギ群集	0.01
乾性	オオオナモミ群落	0.02
	セイタカアワダチソウ群落	0.01
	オオブタクサ群落	<0.01
	シマスズメノヒエ群落	<0.01
開放水面	開放水面	0.04
浮葉	ヒシ群落	<0.01
林縁	ヤブガラシ群落	<0.01



令和 7 (2025) 年度	
群落名/分布面積	
タチヤナギ群集 0.52ha	

注) 植生タイプ: 沈水: 水中に生育する植物が優占する群落/浮葉: 葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水: 抽水植物が優占する群落/湿性: 湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性: 適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁: 林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林: 洪水などの影響を受ける不安定な河辺 (水辺) に生育する樹木が優占する森林 (群落)

注) <0.01: 分布面積が 0.01ha 未満

令和 2 (2020) 年度



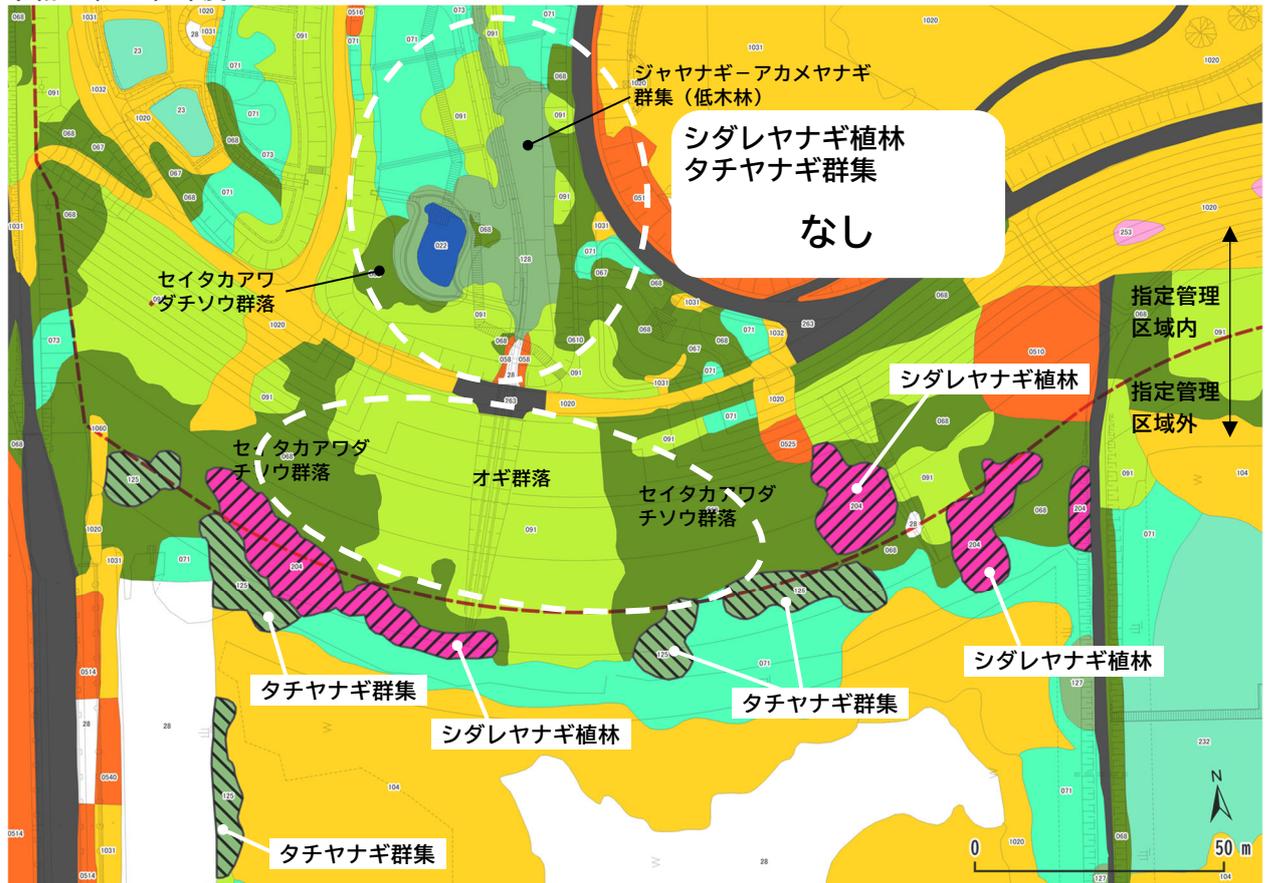
【資料】 令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度



図 3.1.3 シダレヤナギ植林(右斜線)、タチヤナギ群落(左斜線)の経年変化(麻機遊水地第1工区)(1/3)

令和 2 (2020) 年度



【資料】 令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度

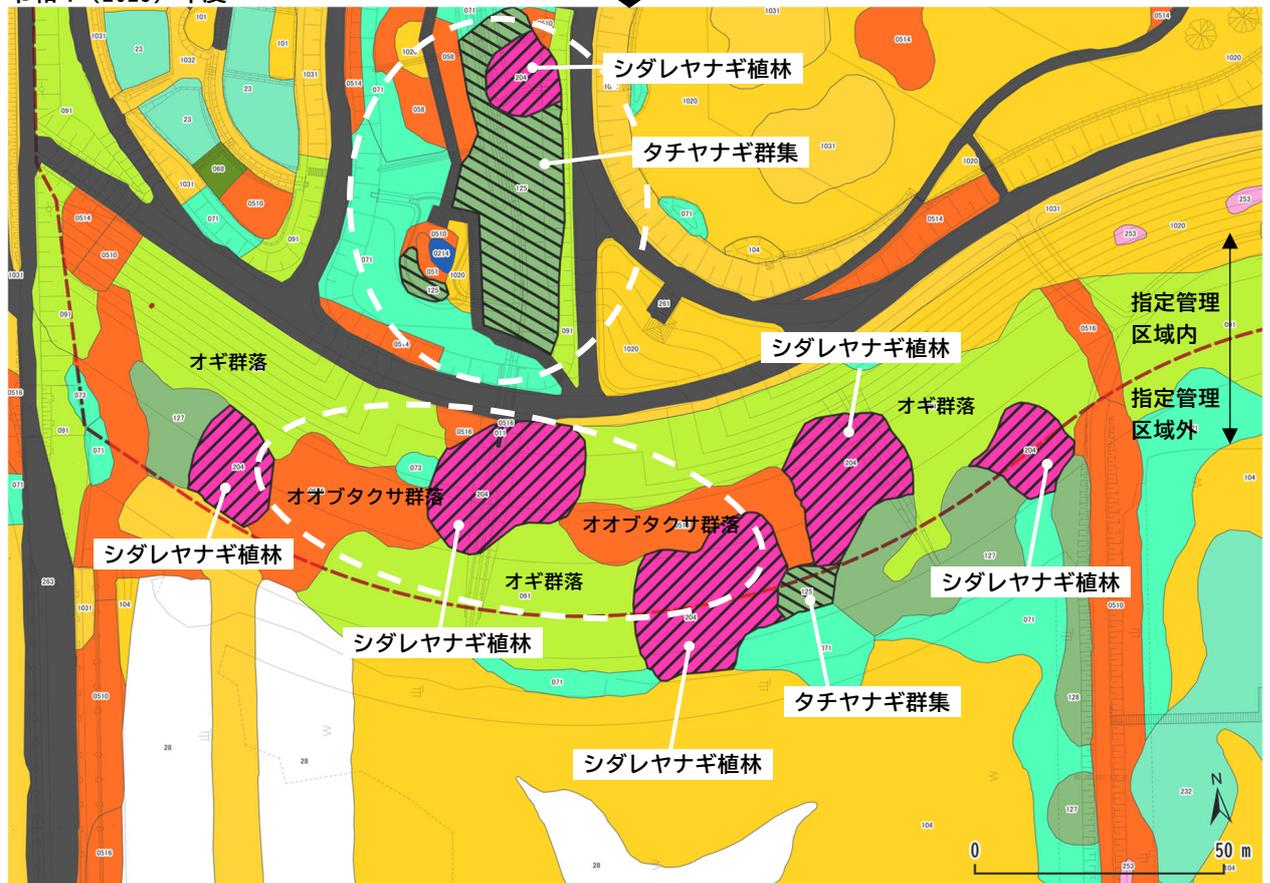
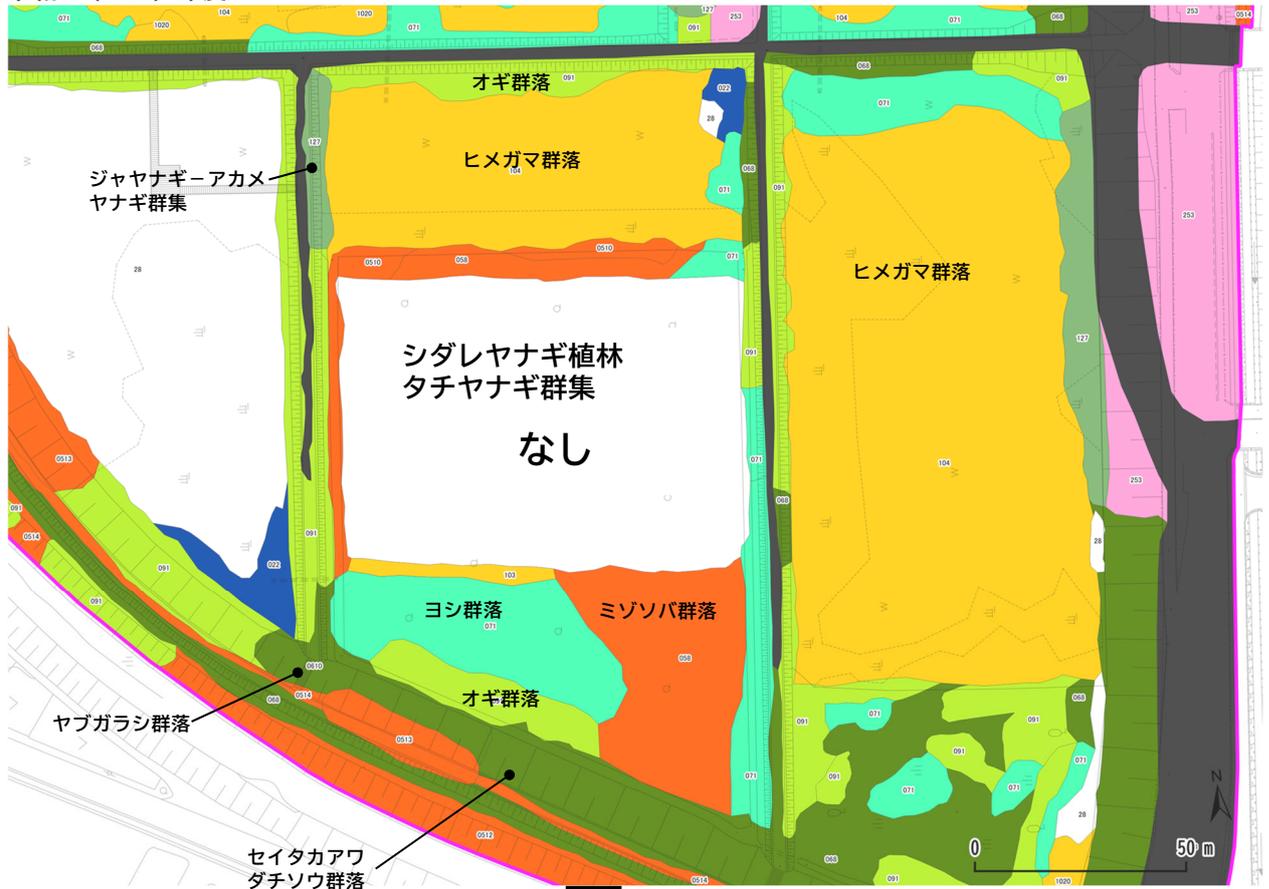


図 3.1.3 シダレヤナギ植林(右斜線)、タチヤナギ群集(左斜線)の経年変化(麻機遊水地第1工区)(2/3)

令和 2 (2020) 年度



【資料】 令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度

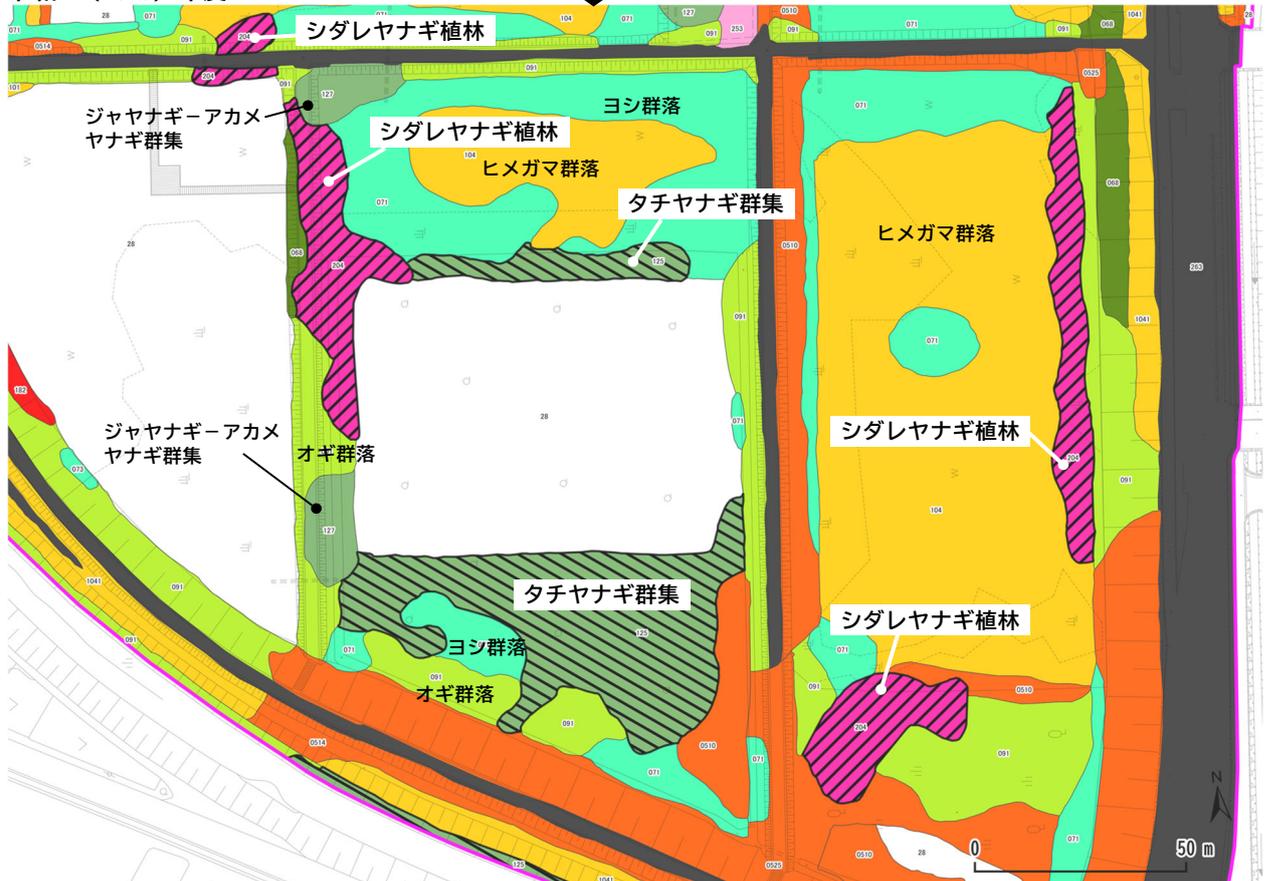


図 3.1.3 シダレヤナギ植林(右斜線)、タチヤナギ群集(左斜線)の経年変化(麻機遊水地第1工区)(3/3)

2) 減少傾向にある植生タイプ

減少傾向にある植生タイプとして、**乾性タイプ**が該当した。本年度調査(令和 7 (2025) 年度)の分布面積(3.2ha)は、分布面積が著しく増加した群落があったにもかかわらず、既往調査(令和 2 (2020) 年度)(4.9ha)に比べて約 35%減少した。このような変化が生じた要因は、本タイプの**主要群落**であった**セイタカアワダチソウ群落**(90%減、R2:2.1ha→R7:0.2ha)、**コセンダングサ群落**(95%減、R2:0.6ha→R7:0.1ha 未満)、**シマスズメノヒエ群落**(80%減、R2:0.5ha→R7:0.1ha)の 3 群落が著しく減少したためである。

セイタカアワダチソウ群落は、本年度調査(令和 7 (2025) 年度)で分布を確認できたのは既往調査(令和 2 (2020) 年度)の 2%の面積に過ぎず、それ以外はオギ群落(湿性タイプ)やカナムグラ群落(林縁タイプ)をはじめとする様々なタイプの植生に変化していた。本群落の分布面積が減少した**主な要因**は、**除草管理**と**工事による改変の影響**が挙げられる。あさはた緑地交流広場の指定管理区域内を中心に行われている**除草管理場所**では**オギ群落**を中心に、また、**工事が行われた場所**では 1 年生草本群落の**カナムグラ群落**を中心に、複数の群落が成立していた。オギ群落やカナムグラ群落は環境タイプが異なるものの、セイタカアワダチソウ群落と同じ富栄養な土砂が堆積した湿潤な立地に成立するため、各群落の優占種が同所的に生育していることが多い。このため、今後、本年度調査(令和 7 (2025) 年度)でオギ群落やカナムグラ群落に変化した場所には、再度セイタカアワダチソウ群落が成立する可能性がある。**コセンダングサ群落**はあさはた緑地交流広場の指定管理区域外の堤防のり面などに分布していたが、ススキ群落やオギ群落といった多年生草本群落に変化していた。このため、本群落の分布面積が減少した要因として、工事後の攪乱を受けた立地などに先駆的に侵入・定着した本群落が**他の植生に遷移した**ことが挙げられる。また、**シマスズメノヒエ群落**はあさはた緑地交流広場の指定管理区域内のみに分布していたが、その多くが施設地等やシバ群落に変化していた。このため、本群落の分布面積が減少した要因として、既往調査(令和 2 (2020) 年度)以降に行われた**施設や緑地の整備**が挙げられる。

一方、減少傾向を示した乾性タイプの群落うち、3 群落(ススキ群落、オオブタクサ群落、タチスズメノヒエ群落)のみは分布面積が著しく増加した。面積増加が最も大きい**ススキ群落**(2,941%増、R2:0.02ha→R7:0.68ha)は、あさはた緑地交流広場の指定管理区域外の、堤防沿いに分布していた**コセンダングサ群落**などから変化しているものが多かった。このため、本群落の増加の要因として、主に**植生の遷移の進行**が挙げられる。次いで面積増加の大きい**オオブタクサ群落**(792%増、R2:0.03ha→R7:0.29ha)は指定管理区域内での変化が 60%以上を占めた。本群落は主に指定管理区域内の**除草管理されている場所**(主にセイタカアワダチソウ群落やオギ群落)で群落を形成していた。セイタカアワダチソウ群落やオギ群落は一定の冠水頻度はあるものの、比較的安定した、富栄養な砂泥質土が堆積した場所で大群落を形成する特性があり、やや比高が高く、肥沃な土壤に成立する**オオブタクサ群落**と類似している。これらの群落内に**オオブタクサ**の埋土種子が存在した場合、除草管理後に開放的な環境になることで、**オオブタクサ**の埋土種子の発芽が促され、群落の形成に至った可能性が高い。**オオブタクサ**は先駆種であるにもかかわらず、多年草に置き換わることなく、継続的に群落を形成するだけでなく、その群落内では植物種の多様性が低下する傾向がある(宮脇・鷺谷 1997⁽⁴⁾、西山ほか 1998⁽⁵⁾)。今後も除草管理を継続することで、**分布面積が拡大する可能性がある**ことから、その動向を注視することが望ましい。

⁽⁴⁾ 宮脇成生・鷺谷いづみ(1996) 土壌シードバンクを考慮した個体群動態モデルと侵入植物オオブタクサの駆除効果の予測. 保全生態学研究 1(1)25-47.

⁽⁵⁾ 西山理行・鷺谷いづみ・宮脇成生(1998) オオブタクサの成長と繁殖に及ぼす光条件の影響. 保全生態学研究 3(2)125-142.

表 3.1.5 減少傾向にある主な群落の変化（網掛けは変化面積の大きい群落）

セイタカアワダチソウ群落

令和 2 (2020) 年度 群落名/分布面積	令和 7 (2025) 年度		
	植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
セイタカアワダチソウ群落 2.10ha	湿性	オギ群落	0.48
		オオイヌタデーオオクサキビ群落	0.07
		キシユウスズメノヒエ群落	0.04
		セイタカヨシ群落	0.01
	乾性	オオブタクサ群落	0.14
		メヒシパーエノコログサ群落	0.12
		ススキ群落	0.12
		タチスズメノヒエ群落	0.11
		セイタカアワダチソウ群落	0.04
		シマスズメノヒエ群落	0.01
	林縁	カナムグラ群落	0.39
	河辺林	シダレヤナギ植林	0.12
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集	0.06
		タチヤナギ群集	0.01
		ジャヤナギーアカメヤナギ群集 (低木林)	0.01
	施設地等	道路	0.15
		人工裸地	0.02
		公園・グラウンド	0.01
		構造物	<0.01
	抽水	ヨシ群落	0.08
		ヒメガマ群落	0.06
		ウキヤガラーマコモ群集	0.01
	開放水面	開放水面	0.03
	耕作地	水田 (ハス畑)	0.01
		水田	<0.01
		畑地 (畑地雑草群落)	<0.01
	人工構造物	コンクリート構造物	<0.01
造林地	植栽樹林群	<0.01	

コセندگانグサ群落

令和 2 (2020) 年度 群落名/分布面積	令和 7 (2025) 年度		
	植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
コセندگانグサ群落 0.62ha	乾性	ススキ群落	0.15
		メヒシパーエノコログサ群落	0.11
	造林地	植栽樹林群	0.10
	湿性	オギ群落	0.06
		ミゾソバ群落	0.03
		ジュズダマ群落	<0.01
		セイタカヨシ群落	<0.01
	開放水面	開放水面	0.04
	林縁	カナムグラ群落	0.04
	施設地等	道路	0.02
	抽水	ヨシ群落	0.02
		ヒメガマ群落	<0.01
	山地林	マダケ植林	0.02
	耕作地	水田 (ハス畑)	0.01

注) 植生タイプ：沈水：水中に生育する植物が優占する群落/浮葉：葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水：抽水植物が優占する群落/湿性：湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性：適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁：林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林：洪水などの影響を受ける不安定な河辺（水辺）に生育する樹木が優占する森林（群落）

注) <0.01：分布面積が0.01ha未滿

令和 2 (2020) 年度



【資料】令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度

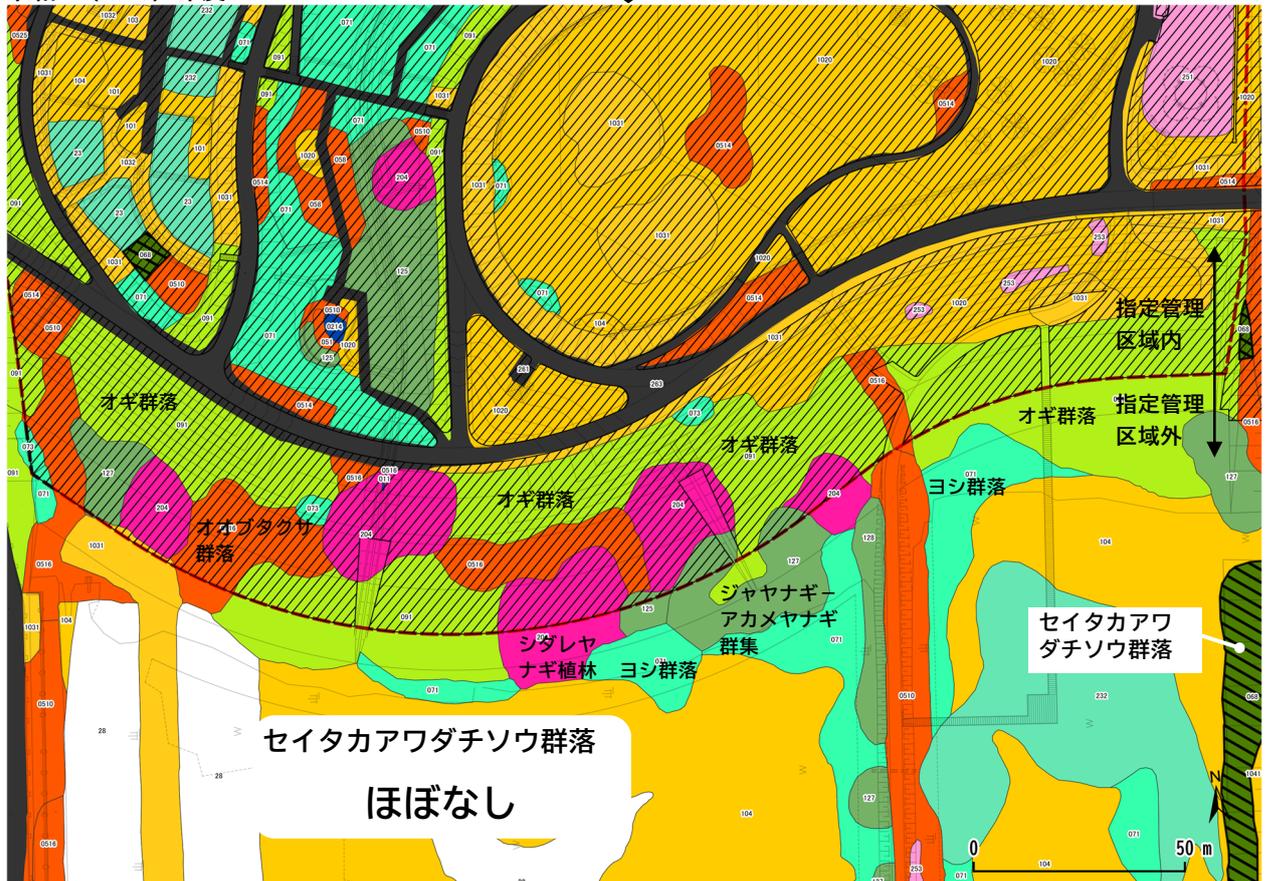
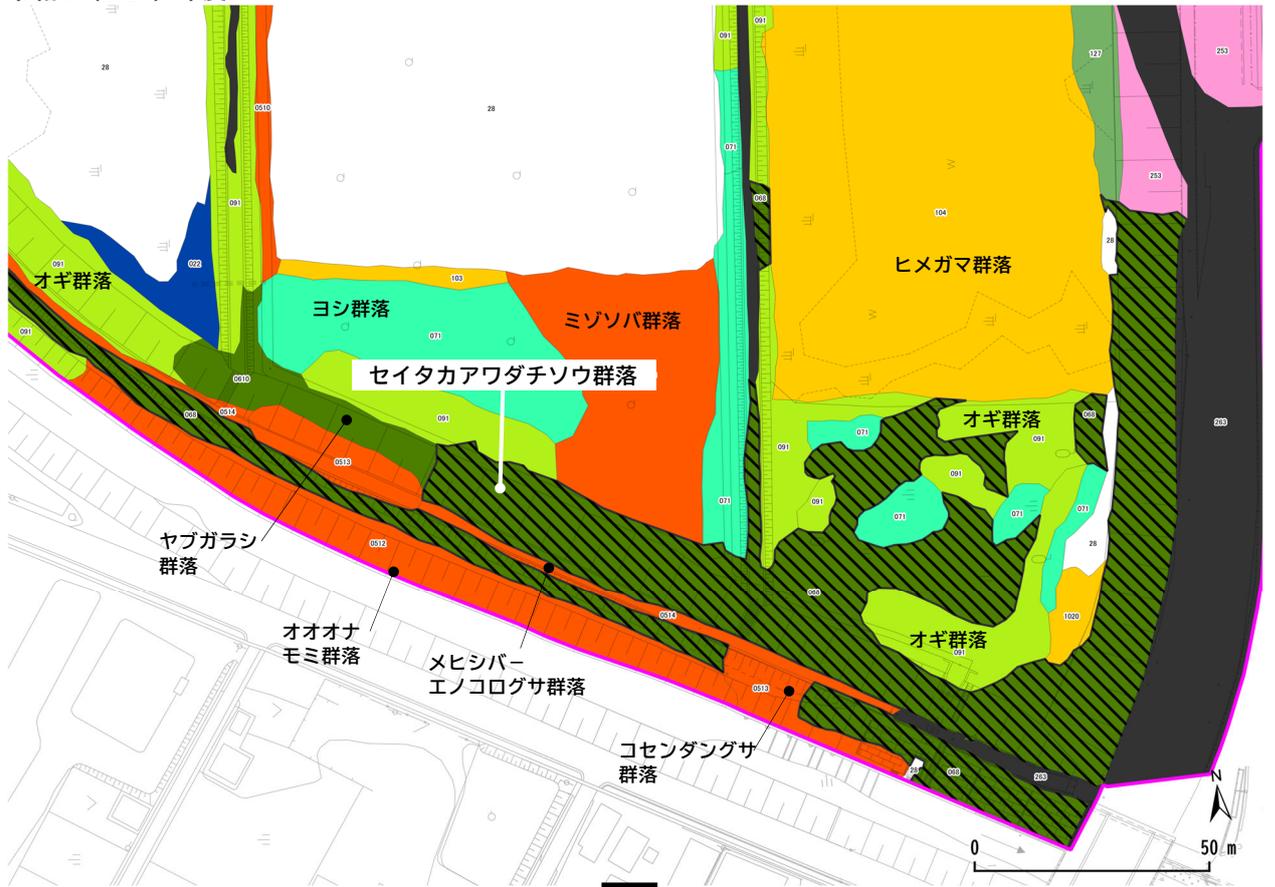


図 3.1.4 Seitakawa-dachisou 群落 (左斜線) の除草管理 (右斜線) による変化 (麻機遊水地第 1 工区)

令和 2 (2020) 年度



【資料】 令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度

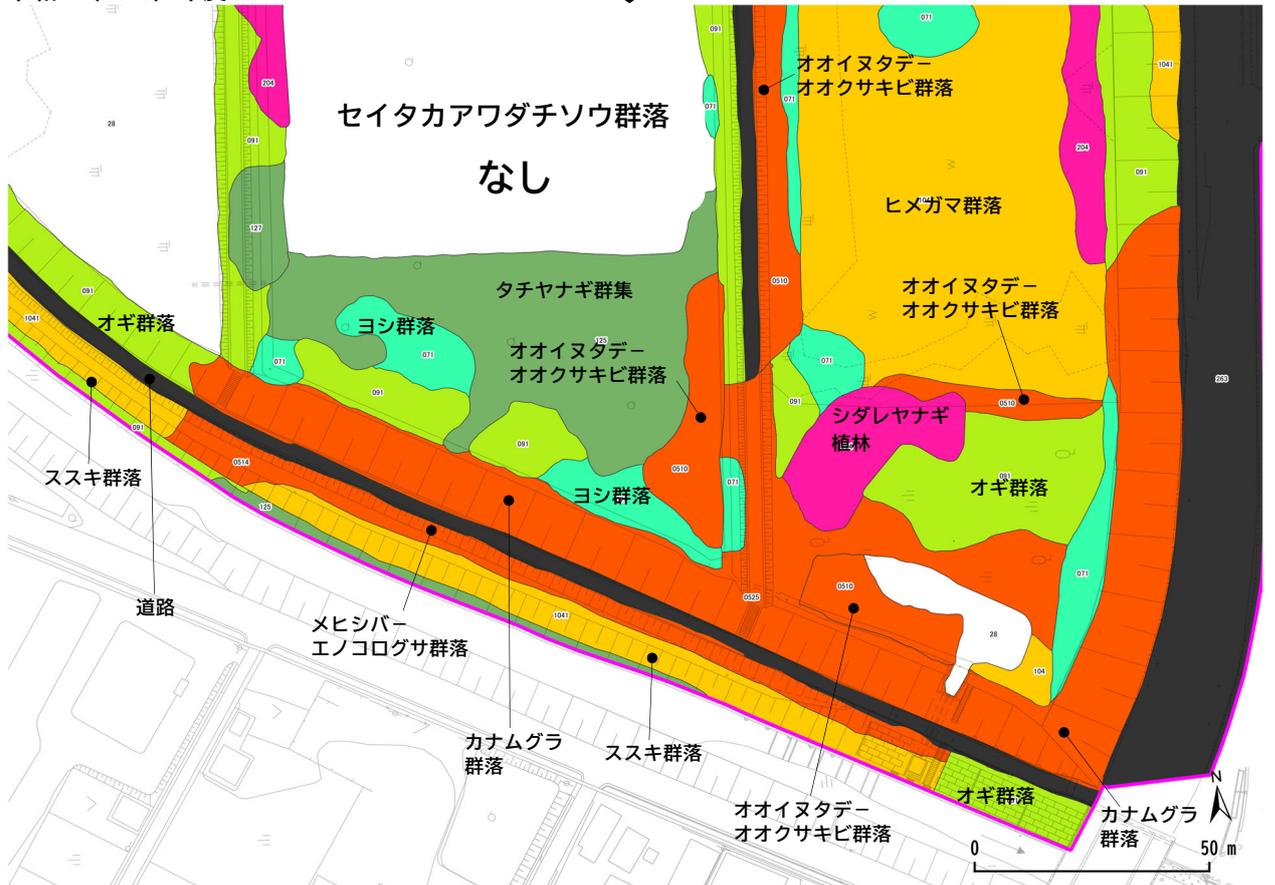


図 3.1.5 セイタカアワダチソウ群落 (左斜線) の工事等による変化 (麻機遊水地第 1 工区)

表 3.1.6 ススキ群落、オオブタクサ群落に変化した群落（網掛けは変化面積の大きい群落）

ススキ群落

令和 2 (2020) 年度		
植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
乾性	コセندگانグサ群落	0.15
	セイタカアワダチソウ群落	0.12
	オオオナモミ群落	0.08
	ススキ群落	0.02
	メヒシパーエノコログサ群落	0.02
施設地等	道路	0.13
	人工裸地	0.08
	構造物	<0.01
湿性	オギ群落	0.07
	ジュズダマ群落	0.01
	チドメグサ群落	<0.01
造林地	植栽樹林群	<0.01
人工構造物	コンクリート構造物	<0.01
開放水面	開放水面	<0.01
耕作地	水田 (ハス畑)	<0.01



令和 7 (2025) 年度	
群落名/分布面積	
ススキ群落 0.68ha	

オオブタクサ群落

令和 2 (2020) 年度		
植生タイプ	群落名	分布面積 (ha)
乾性	セイタカアワダチソウ群落	0.14
	タチスズメノヒエ群落	0.02
	メヒシパーエノコログサ群落	0.01
	オオブタクサ群落	<0.01
	シマスズメノヒエ群落	<0.01
湿性	オギ群落	0.04
	オオイヌタデーオオクサキビ群落	0.01
	キシウスズメノヒエ群落	<0.01
	ジュズダマ群落	<0.01
	ホソバヒメミソハギ群落	<0.01
	セイタカヨシ群落	<0.01
河辺林	シダレヤナギ植林	0.01
	タチヤナギ群集	0.01
抽水	ヨシ群落	0.02
	ウキヤガラーマコモ群集	<0.01
	ヒメガマ群落	<0.01
施設地等	人工裸地	0.01
	道路	<0.01
開放水面	開放水面	<0.01
人工構造物	コンクリート構造物	<0.01



令和 7 (2025) 年度	
群落名/分布面積	
オオブタクサ群落 0.29ha	

注) 植生タイプ：沈水：水中に生育する植物が優占する群落/浮葉：葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水：抽水植物が優占する群落/湿性：湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性：適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁：林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林：洪水などの影響を受ける不安定な河辺（水辺）に生育する樹木が優占する森林（群落）

注) <0.01：分布面積が0.01ha未満

令和 2 (2020) 年度



【資料】 令和 2 年度麻委第 2 号麻機遊水地植生調査業務委託報告書

令和 7 (2025) 年度

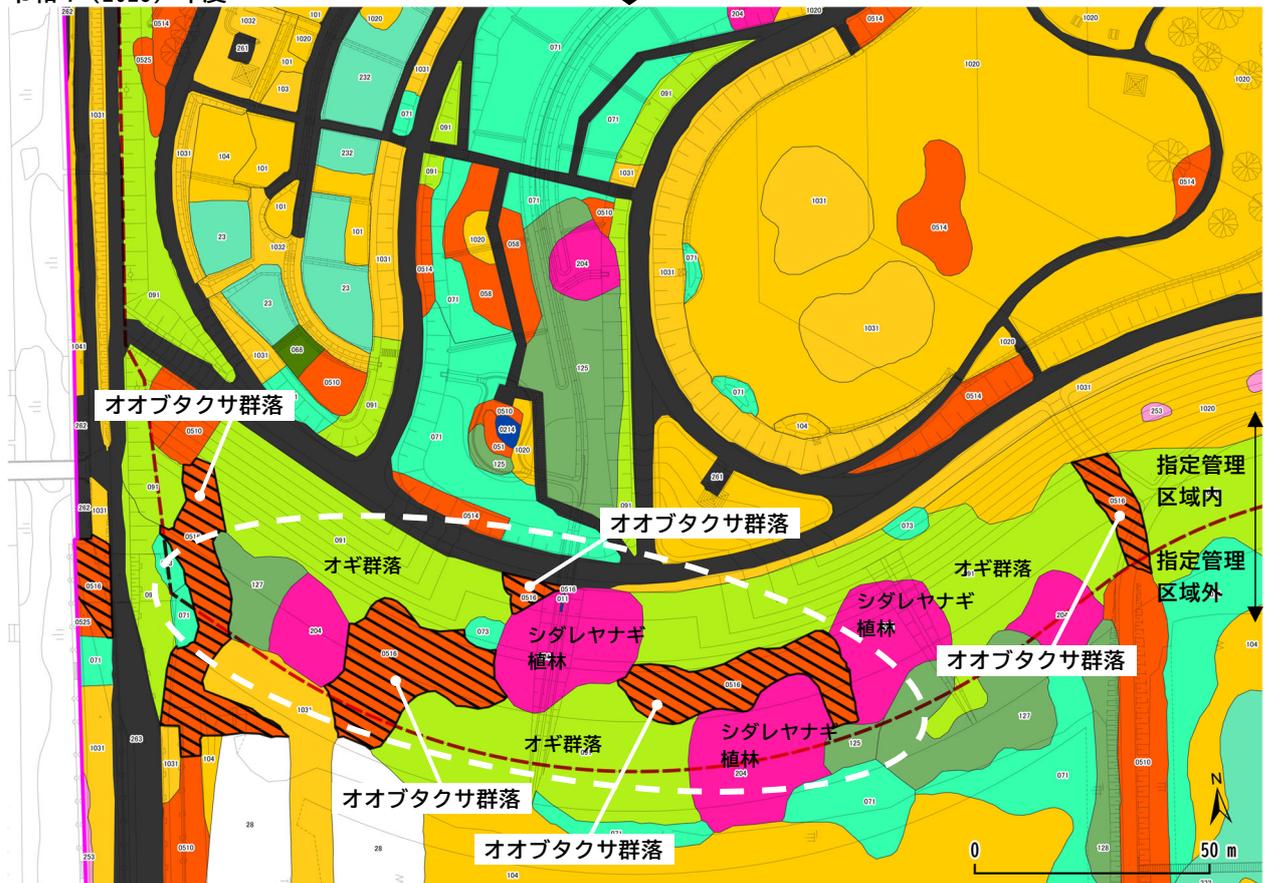


図 3.1.6 オオブタクサ群落 (左斜線) の変化 (麻機遊水地第 1 工区)

(3) 外来種群落

麻機遊水地第1工区でこれまでに確認した外来種群落は計12群落で、そのうち本年度(令和7(2025)年度)に確認した外来種の優占する群落(以下、外来種群落)は計**10群落**(タチスズメノヒエ群落、オオブタクサ群落、セイタカアワダチソウ群落、シマスズメノヒエ群落、コセンダングサ群落、オオオナモミ群落、キシウズメノヒエ群落、ジュズダマ群落、シダレヤナギ植林、オオカナダモ群落)であった(「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト(植物群落リスト、令和7(2025)年8月8日更新)」(<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm>)を基準)。これらには生態系被害防止外来種リストに掲載されている植物が優占する群落(8群落:キシウズメノヒエ群落、アレチハナガサ群落、セイタカアワダチソウ群落、タチスズメノヒエ群落、シマスズメノヒエ群落、オオオナモミ群落、オオブタクサ群落、オオカナダモ群落)が含まれていた。なお、外来生物法で特定外来生物に指定されている植物が優占する群落は無かった。

本年度調査(令和7(2025)年度)で確認した外来種群落のうち、**分布面積**が最も大きい植生タイプは**乾性タイプ**(主にタチスズメノヒエ群落、オオブタクサ群落)、次いで**湿性タイプ**(主にキシウズメノヒエ群落)、**河辺林タイプ**(シダレヤナギ植林)であった。これらのうち、分布面積が既往調査(令和2(2020))に比べて**大幅に増加**していたのが、**タチスズメノヒエ群落**、**オオブタクサ群落**(以上、乾性タイプ)、**シダレヤナギ植林**(河辺林タイプ)であった。特に、オオブタクサ群落の増加が著しかった(R2:0.1未満→R7:0.3ha、792%増)。

表 3.1.7 外来種群落の経年変化と分布面積の増減(麻機遊水地第1工区)(**青字**:増加、**赤字**:減少)

植生タイプ	群落名	優占種		面積 (ha)		増減率 (R2比)
		外来生物法	生態系被害防止リスト	R2 (2020)	R7 (2025)	
乾性	タチスズメノヒエ群落		●	0.42	0.93	123%
	オオブタクサ群落		●	0.03	0.29	792%
	セイタカアワダチソウ群落		●	2.10	0.21	-90%
	シマスズメノヒエ群落		●	0.53	0.11	-80%
	コセンダングサ群落			0.62	0.03	-95%
	オオオナモミ群落		●	0.12	0.01	-93%
	アレチハナガサ群落		●	0.06		-100%
湿性	キシウズメノヒエ群落		●	1.64	1.60	-3%
	ジュズダマ群落			0.22	0.15	-31%
	ホソバヒメミソハギ群落			0.01		-100%
河辺林	シダレヤナギ植林			0.11	0.59	417%
沈水	オオカナダモ群落		●		0.0003	新規
総計	12 群落	0 群落	8 群落	5.9	3.9	-33%
				11 群落	10 群落	

注) 外来生物法: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(最終更新: 令和3(2021)年8月13日)

生態系被害防止リスト: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(公表: 平成27(2015)年3月26日)

注) 植生タイプ: 沈水: 水中に生育する植物が優占する群落/浮葉: 葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水: 抽水植物が優占する群落/湿性: 湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性: 適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁: 林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林: 洪水などの影響を受ける不安定な河辺(水辺)に生育する樹木が優占する森林(群落)

3.1.2 群落組成調査

群落組成調査の対象は計 13 群落とした。これらのうち、群落組成調査を実施したのは 11 箇所である。

調査対象のうち、6 群落（オオカナダモ群落、オニバス群落、ミズアオイ群落、シバ群落、マダケ植林、公園・グラウンド）は麻機緑地第 1 工区の既往調査（令和 2（2020）年度）で確認されておらず、本年度（令和 7（2025）年度）に新たに確認した群落である。また、7 群落（シバ群落、水田、畑地（畑地雑草群落）、キシウスズメノヒエ群落 2 箇所、ミゾソバ群落）は同工区のあさはた緑地交流広場において除草による維持管理が行われている場所と同工区東側にあるハス畑に成立している群落である。ただし、新規群落であり、維持管理場所の植生でもあるシバ群落は新規群落の調査で代表させた。また、公園・グラウンドはあさはた緑地交流広場の遊具が設置された場所を区分したものであることから、群落組成調査の対象からは除外した。

表 3.1.8 群落組成調査地点の概要

区分	場所	コード 番号	群落名	概要
令和 2 年度の植生調査で未確認	あさはた緑地交流広場	Q1	オオカナダモ群落	新規群落 1：開放水面エリア内の小川
		Q2	オニバス群落	新規群落 2：ふれあいの水辺内の池沼
		Q3	ミズアオイ群落	新規群落 3：ふれあいの水辺内の池沼
		Q4	シバ群落	新規群落 6 除草管理：(1)センターハウスエリア
		Q5	マダケ植林	新規群落 4：堤防法面
		—	公園・グラウンド	新規群落 5：遊具が設置された場所。 群落組成調査の対象とはしない。
植生の維持管理が実施されている箇所	あさはた緑地交流広場	Q4	シバ群落	除草管理：(1)センターハウスエリア 新規群落 6 と同じ
		Q6	水田	あさはた緑地交流広場：(2)体験農園エリア（水田）
		Q7	メヒシパーエノコログサ群落	あさはた緑地交流広場：(2)体験農園エリア（畑）
		Q8	キシウスズメノヒエ群落	あさはた緑地交流広場：(4)原っぱエリア（多目的広場）
		Q9	キシウスズメノヒエ群落	あさはた緑地交流広場：(5)開放水面エリア（ふれあいの水辺）
		Q10	ミゾソバ群落	あさはた緑地交流広場：(5)小川エリア（ふれあいの水辺）
	第 1 工区	Q11	水田（ハス畑）	保全管理：ハス畑

注）群落名は「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト（植物群落リスト、令和 7（2025）年 8 月 8 日更新）」（<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/knsnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsulist.htm>）を基準とした。

(1) 新規植物群落

① オオカナダモ群落

本群落は、あさはた緑地交流広場の小川エリア（ふれあいの水辺）から開放水面エリア（ふれあいの水辺）に流出する、水深 30 cm 程度の水路に成立した、外来種のオオカナダモが優占する沈

③ ミズアオイ群落

本群落は、あさはた緑地交流広場の小川エリア（ふれあいの水辺）にある池沼に成立した、ミズアオイが優占する1年生草本群落である。優占種以外には分布面積は極めて小規模（0.003ha）である。ミズアオイは攪乱依存種なため、埋土種子が攪乱によって掘り出されることで、発芽する特性を有している。このため、既往調査（令和2（2020）年度）では主にヒシ群落で成立していた本池沼で、維持管理に伴う整備など、何らかの攪乱が意図的あるいは非意図的に起きたと想定される。

ただし、種子が土中深くに埋もれたことによる発芽不良、発芽時期に他の植物などによる遮光（富永・米田 1997⁷⁾、生育初期のザリガニなどによる茎などの切断などの影響により、群落が衰退していく可能性がある。このため、比較的簡単な管理（橋本ほか 2001）と本種の最盛期（9月ごろ）における継続的な調査を今後も継続することが望ましい。

表 3.1.13 新規群落：ミズアオイ群落の概要（麻機遊水地第1工区）

【ミズアオイ群落】（35.0221813°，138.3927783°）

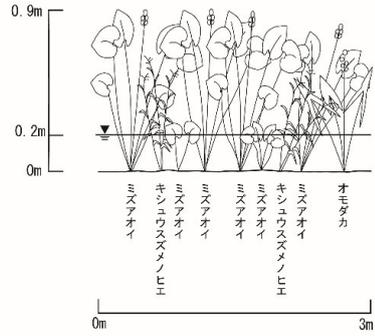
概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ミズアオイが優占する湿性に成立する多年生草本群落 ・植被率は100%、群落高は0.9m、出現種数は4種 ・優占種以外の主な構成種はキシユウスズメノヒエ、オモダカ、アオウキクサ ・あさはた緑地交流広場の小川エリア（ふれあいの水辺）にある池沼に成立 		階層	優占種	高さ (m)	植被率
		I 高木層			
		II 亜高木層			
		III 低木層			
		IV 草本層	ミズアオイ	0~0.9	100
		階層	被度・群度	和名（代表種）	
		IV	5・5	ミズアオイ	
			3・2	キシユウスズメノヒエ	
			+	オモダカ	
			+	アオウキクサ	
		(R7 (2025) /9/25 調査)			
 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 撮影)</p>		断面模式図			
		 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 調査)</p>			

表 3.1.14 ミズアオイ群落の変化系列（麻機遊水地第1工区）（網掛けは変化の大きい群落）

令和2（2020）年度			令和7（2025）年度		
植生タイプ	群落名	面積 m ²	植生タイプ	群落名	面積 m ²
浮葉	ヒシ群落	26.8	抽水	ミズアオイ群落	30.4m ² (0.0003ha)
河辺林	ジャヤナギーアカメヤナギ群集(低木林)	3.6			
2タイプ	2群落	19,602.3			

注) 植生タイプ：沈水：水中に生育する植物が優占する群落/浮葉：葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水：抽水植物が優占する群落/湿性：湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性：適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁：林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林：洪水などの影響を受ける不安定な河辺（水辺）に生育する樹木が優占する森林(群落)

⁷⁾ 富永達・米田克己（1997） 危急種ミズアオイの生活史と繁殖特性. 信州大学農学部農場報告 8:39-42.

⑤ マダケ植林

本群落は、麻機緑地第1工区の南西側にある堤防法面に成立した、自然侵入したマダケが優占する群落である（分布面積は0.02ha）。

本群落は、堤防のり面の整備後に成立したと考えられるコセンダングサ群落やメヒシパーエノコログサ群落（既往調査（令和2（2020）年度））から変化していた。マダケ等の竹林は水害防備林としての機能を有するものの、タケが堤防へ侵入し、適切に除草作業が出来ない場合、除草工事及び堤防点検・巡視への支障、竹の根が堤体機能へ及ぼす影響（堤防内部へ根が張ってしまう場合は、根が洪水時の水の通り道になり、堤防の浸透崩壊を引き起こす恐れがある等）が指摘されている。

このため、本群落の動向に留意するとともに、必要に応じて、適切な対応を検討することが望ましい。に対する何らかの対策を検討することが望ましい。

表 3.1.17 新規群落：マダケ植林の概要（麻機遊水地第1工区）

【マダケ植林】（35.0197373° , 138.3919188°）

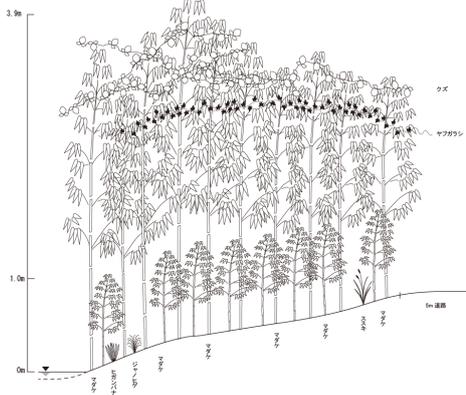
概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）			
<ul style="list-style-type: none"> マダケが優占する、堤防のり面に成立する群落 低木層の植被率は100%、群落高は3.9m、出現種数は12種 優占種以外の主な構成種はヒガンバナ、クズ、ヤブカラシ、ノイバラ、ススキ、ジャノヒゲ 第1工区南西側の堤防のり面に成立 		階層	優占種	高さ (m)	植被率
		I 高木層			
		II 亜高木層			
		III 低木層	マダケ	1.0~3.9	100
		IV 草本層	マダケ	0~1.0	5
		階層	被度・群度	和名（代表種）	
		III	5・5	マダケ	
			4・4	クズ	
			1・1	ヤブカラシ	
		IV	1・1	マダケ	
			+	ヒガンバナ	
		(R7 (2025) /9/25 調査)			
 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 撮影)</p>		<p style="text-align: center;">断面模式図</p>  <p style="text-align: right;">(R7 (2025) /9/25 調査)</p>			

表 3.1.18 マダケ植林の変化系列（麻機遊水地第1工区）（網掛けは変化の大きい群落）

令和2（2020）年度			令和7（2025）年度		
植生タイプ	群落名	面積 m ²	植生タイプ	群落名	面積 m ²
乾性	コセンダングサ群落	189.9	山地林	マダケ植林	208.5m ² (0.02ha)
	メヒシパーエノコログサ群落	18.6			
1タイプ	2群落	208.5			

注) 植生タイプ：沈水：水中に生育する植物が優占する群落/浮葉：葉身を水面に浮かべる植物が優占する群落/抽水：抽水植物が優占する群落/湿性：湿った場所に生育する植物が優占する群落/乾性：適湿から乾燥した場所に生育する植物が優占する群落/林縁：林縁部でソデ・マント群落を形成する植物が優占する群落/河辺林：洪水などの影響を受ける不安定な河辺（水辺）に生育する樹木が優占する森林（群落）

(2) 維持管理実施箇所

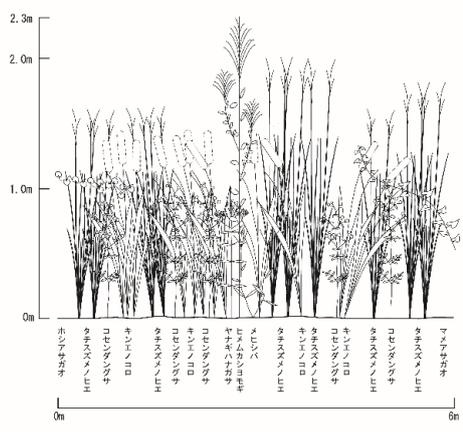
① メヒシバーエノコログサ群落 (体験農園エリア (畑) : 畑作)

本群落は、あさはた緑地交流広場の体験農園エリア内で、畑として利用されている場所に成立している群落である。ただし、本調査時 (令和 7 (2025) 年 9 月 25 日) には休耕しており、メヒシバーエノコログサ群落が成立していた。

調査地点の本年度 (令和 7 (2025) 年度) の植生 (メヒシバーエノコログサ群落) は既往調査 (令和 2 (2020) 年度) (タチスズメノヒエ群落) から変化していた。多年草のタチスズメノヒエも優占しているものの、キンエノコロやコセンダングサなどの好窒素性 1 年生草本の優占度が高いことから、植生が変化したのは既往調査 (令和 2 (2020) 年度) 以降に耕作地 (畑) として利用した後、耕起をせずに放置したことが要因となっている。

表 3.1.19 除草管理 (頻度: 6 回/年): メヒシバーエノコログサ群落の概要 (麻機遊水地第 1 工区)

【メヒシバーエノコログサ群落】 (35.0234617°, 138.3923284°)

概要	群落組成概要 (令和 7 (2025) 年度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・キンエノコロが優占する多年生草本群落 ・植被率は 100%、群落高は 2.3m、出現種数は 29 種 ・優占種以外の主な構成種はキンエノコロ、コセンダングサ、タチスズメノヒエ、ホシアサガオ、メヒシバ、マメアサガオ、ヒメムカシヨモギ、ヤナギハナガサ、ノチドメ 	階層	優占種	高さ (m)	植被率
	I 高木層			
II 亜高木層				
III 低木層				
IV 草本層	キンエノコロ	0~2.3	100	
階層	被度・群度	和名 (代表種)		
IV	3・3	キンエノコロ		
	3・3	コセンダングサ		
	2・2	タチスズメノヒエ		
	2・2	ホシアサガオ		
	1・1	メヒシバ		
				(R7 (2025) /9/25 調査)
	断面模式図			
				
(R7 (2025) /9/25 撮影)		(R7 (2025) /9/25 調査)		

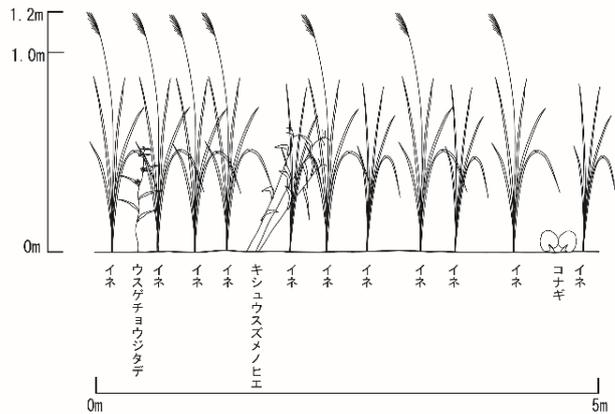
② 水田（体験農園エリア（水田）：稲作）

本群落は、あさはた緑地交流広場の体験農園エリア内で、1回/年の除草管理（静岡市緑地政策課 2023）が行われている水田に成立している群落である。なお、水田周辺の畦畔や水路は11回/年、のり面等は6回/年の除草管理が行われている。

調査地点の本年度（令和7（2025）年度）の植生は既往調査（令和2（2020）年度）と同じ「水田」であった。なお、調査地点において、重要種のウスゲチョウジタデ（静岡県 RDB⁹：準絶滅危惧（NT）、環境省 RL¹⁰：準絶滅危惧（NT））を確認した。

表 3.1.20 除草管理（頻度：1回/年）：水田の概要（麻機遊水地第1工区）

【水田】（35.0224340°，138.3923211°）

概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）			
<ul style="list-style-type: none"> ・イネが優占する、除草管理された群落 ・植被率は100%、群落高は0.05m、出現種数は3種 ・優占種以外の主な構成種はコナギ、アメリカタカサブロウ、ウスゲチョウジタデ、タマガヤツリ ・第1工区北側のあさはた緑地交流広場内体験農園エリア（水田）に成立 		階層	優占種	高さ (m)	植被率
		I 高木層			
		II 亜高木層			
		III 低木層			
		IV 草本層	イネ	0~1.2	100
		階層	被度・群度	和名（代表種）	
		IV	5・5	イネ	
			+	コナギ	
			+	アメリカタカサブロウ	
			+	ウスゲチョウジタデ	
			+	タマガヤツリ	
		(R7 (2025) /9/25 調査)			
 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 撮影)</p>		断面模式図			
		 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 調査)</p>			

⁹ 静岡県編（2020）まもりたい静岡県の野生生物 2020－静岡県レッドデータブックー〈植物・菌類編〉。静岡県，静岡，静岡 500pp.

¹⁰ 第5次レッドリスト（植物・菌類）の公表について（お知らせ）（環境省、公表日：令和7（2025）年3月18日）（https://www.env.go.jp/press/press_04578.html）

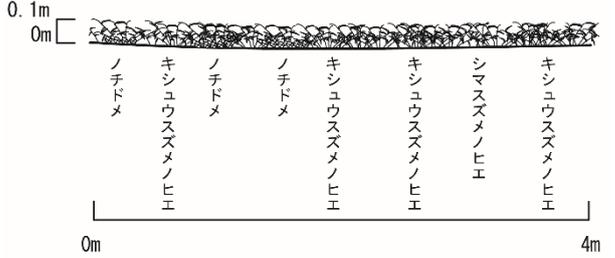
③ キシュウスズメノヒエ群落（原っぱエリア（多目的広場）：除草管理）

本群落は、あさはた緑地交流広場の原っぱエリア（多目的広場）で、8回/年の除草管理（静岡市緑地政策課 2023）が行われている場所に成立した、外来種のキシュウスズメノヒエが優占する湿性タイプの単子葉草本群落である。

調査地点の本年度（令和7（2025）年度）の植生は既往調査（令和2（2020）年度）と同じ「キシュウスズメノヒエ群落」であった。植生の変化が見られないのは、草刈り頻度が高く、人の利用も多いことが、他種の侵入・定着を妨げる要因となっている。

表 3.1.21 除草管理（頻度：8回/年）：キシュウスズメノヒエ群落の概要（麻機遊水地第1工区）

【キシュウスズメノヒエ群落】（35.0226404°，138.3942365°）

概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）																						
<ul style="list-style-type: none"> ・キシュウスズメノヒエが優占する湿性に成立する多年生草本群落 ・植被率は100%、群落高は0.6m、出現種数は6種 ・優占種以外の構成種はアレチヌスビトハギ、セイタカアワダチソウ、シマスズメノヒエ、シロツメクサ、クサネム 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>優占種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>II 亜高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>III 低木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IV 草本層</td> <td>キシュウスズメノヒエ</td> <td>0~0.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>				階層	優占種	高さ (m)	植被率	I 高木層				II 亜高木層				III 低木層				IV 草本層	キシュウスズメノヒエ	0~0.6	100
	階層	優占種	高さ (m)	植被率																				
I 高木層																								
II 亜高木層																								
III 低木層																								
IV 草本層	キシュウスズメノヒエ	0~0.6	100																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>被度・群度</th> <th>和名（代表種）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IV</td> <td>5・5</td> <td>キシュウスズメノヒエ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+・2</td> <td>アレチヌスビトハギ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>セイタカアワダチソウ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>シマスズメノヒエ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>シロツメクサ</td> </tr> </tbody> </table>				階層	被度・群度	和名（代表種）	IV	5・5	キシュウスズメノヒエ		+・2	アレチヌスビトハギ		+	セイタカアワダチソウ		+	シマスズメノヒエ		+	シロツメクサ	
階層	被度・群度	和名（代表種）																						
IV	5・5	キシュウスズメノヒエ																						
	+・2	アレチヌスビトハギ																						
	+	セイタカアワダチソウ																						
	+	シマスズメノヒエ																						
	+	シロツメクサ																						
		(R7 (2025) /9/25 調査)																						
	断面模式図																							
																								
(R7 (2025) /9/25 撮影)		(R7 (2025) /9/25 調査)																						

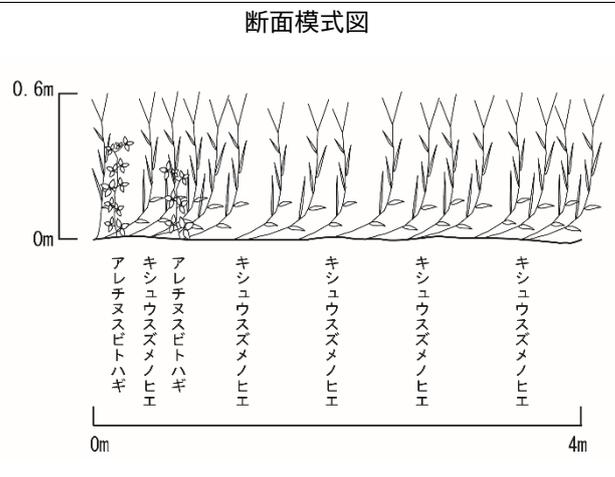
④ キシュウスズメノヒエ群落（開放水面エリア（ふれあいの水辺）：除草管理）

本群落は、あさはた緑地交流広場の開放水面エリア（ふれあいの水辺）で、6回/年の除草管理（静岡市緑地政策課 2023）が行われている場所に成立した、外来種のキシュウスズメノヒエが優占する湿性タイプの単子葉草本群落である。

調査地点の本年度（令和7（2025）年度）の植生は既往調査（令和2（2020）年度）と同じ「キシュウスズメノヒエ群落」であった。原っぱエリア（多目的広場）の植生（キシュウスズメノヒエ群落）と同じではあるが、群落高や出現種数に差が認められた。これは、草刈り頻度が原っぱエリア（多目的広場）よりも少なく、かつ人の利用も少ないことが、他種の侵入・定着を可能にする要因となっている。

表 3.1.22 除草管理（頻度：6回/年）：キシュウスズメノヒエ群落の概要（麻機遊水地第1工区）

【キシュウスズメノヒエ群落】（35.0221401°，138.3944986°）

概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）																																														
<ul style="list-style-type: none"> ・キシュウスズメノヒエが優占する湿性地に成立する多年生草本群落 ・植被率は100%、群落高は0.6m、出現種数は6種 ・優占種以外の構成種はアレチヌスビトハギ、セイタカアワダチソウ、シマスズメノヒエ、シロツメクサ、クサネム 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>優占種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>II 亜高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>III 低木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IV 草本層</td> <td>キシュウスズメノヒエ</td> <td>0~0.6</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	階層	優占種	高さ (m)	植被率	I 高木層				II 亜高木層				III 低木層				IV 草本層	キシュウスズメノヒエ	0~0.6	100	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>被度・群度</th> <th colspan="2">和名（代表種）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IV</td> <td>5・5</td> <td colspan="2">キシュウスズメノヒエ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+・2</td> <td colspan="2">アレチヌスビトハギ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td colspan="2">セイタカアワダチソウ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td colspan="2">シマスズメノヒエ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td colspan="2">シロツメクサ</td> </tr> </tbody> </table>			階層	被度・群度	和名（代表種）		IV	5・5	キシュウスズメノヒエ			+・2	アレチヌスビトハギ			+	セイタカアワダチソウ			+	シマスズメノヒエ			+	シロツメクサ	
	階層	優占種	高さ (m)	植被率																																												
I 高木層																																																
II 亜高木層																																																
III 低木層																																																
IV 草本層	キシュウスズメノヒエ	0~0.6	100																																													
階層	被度・群度	和名（代表種）																																														
IV	5・5	キシュウスズメノヒエ																																														
	+・2	アレチヌスビトハギ																																														
	+	セイタカアワダチソウ																																														
	+	シマスズメノヒエ																																														
	+	シロツメクサ																																														
		(R7 (2025) /9/25 調査)																																														
	断面模式図																																															
																																																
(R7 (2025) /9/25 撮影)		(R7 (2025) /9/25 調査)																																														

⑤ ミゾソバ群落（小川エリア（ふれあいの水辺）：除草管理）

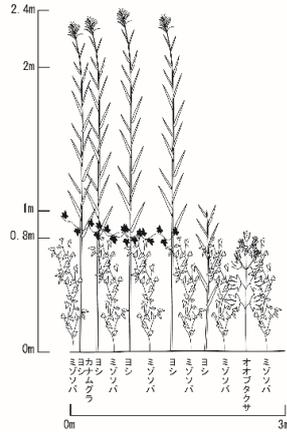
本群落は、あさはた緑地交流広場の小川エリア（ふれあいの水辺）で、6回/年の除草管理（静岡市緑地政策課 2023）が行われている場所に成立した、ミゾソバが優占する1年生草本群落である。

調査地点の本年度（令和7（2025）年度）の植生（湿性タイプ：ミゾソバ群落）は既往調査（令和2（2020）年度）に成立していた抽水タイプのヨシ群落から変化していた。小川エリア（ふれあいの水辺）では、木道の整備（令和4（2022）年3月完成）や木道沿いに浅い湿地や小川を造成する整備を行っている（麻機遊水地保全活用推進協議会ホームページ）。植生の変化はこのような造成整備の影響を受けたことに起因している。

なお、本群落の優占種であるミゾソバは好窒素的な湿地性の1年生草本で、流水辺という攪乱を受けやすく、また土壌中の窒素や炭素含量の多い、富栄養化した場所（大塚・根本 1997⁽¹¹⁾1999⁽¹²⁾）に群落を形成する。このため、攪乱頻度が低下し、安定した状態が継続すると、群落としての維持が困難になる。このため、人の立ち入りを伴う定期的な草刈り（＝攪乱）は本群落を維持するうえで重要な要因となる。

表 3.1.23 除草管理（頻度：6回/年）：ミゾソバ群落の概要（麻機遊水地第1工区）

【ミゾソバ群落】（35.0224675°，138.3928029°）

概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）																						
<ul style="list-style-type: none"> ・ミゾソバが優占する池沼に成立する湿地性の多年生草本群落 ・植被率は100%、群落高は2.4m、出現種数は7種 ・優占種以外の構成種はヨシ、セリ、コブナグサ、オオブタクサ、カナムグラ、アメリカセンダングサ 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>優占種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>II 亜高木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>III 低木層</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IV 草本層</td> <td>ミゾソバ</td> <td>0~2.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>				階層	優占種	高さ (m)	植被率	I 高木層				II 亜高木層				III 低木層				IV 草本層	ミゾソバ	0~2.4	100
	階層	優占種	高さ (m)	植被率																				
I 高木層																								
II 亜高木層																								
III 低木層																								
IV 草本層	ミゾソバ	0~2.4	100																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>被度・群度</th> <th>和名（代表種）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IV</td> <td>5・5</td> <td>ミゾソバ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1・1</td> <td>ヨシ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>セリ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>コブナグサ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td>オオブタクサ</td> </tr> </tbody> </table>				階層	被度・群度	和名（代表種）	IV	5・5	ミゾソバ		1・1	ヨシ		+	セリ		+	コブナグサ		+	オオブタクサ	
階層	被度・群度	和名（代表種）																						
IV	5・5	ミゾソバ																						
	1・1	ヨシ																						
	+	セリ																						
	+	コブナグサ																						
	+	オオブタクサ																						
		(R7 (2025) /9/25 調査)																						
 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 撮影)</p>		<p style="text-align: center;">断面模式図</p>  <p style="text-align: right;">(R7 (2025) /9/25 調査)</p>																						

(11) 大塚俊之・根本正之（1997）土壌の富栄養化が農村地域の河川周辺雑草群落の動態に及ぼす影響. 雑草研究 42(2):107-114.

(12) 大塚俊之・根本正之（1999）ミゾソバ (*Persicaria thunbergii* (Sieb. et Zucc.) H.Gross) を利用した小河川の富栄養化診断. 雑草研究 44(1):19-28.

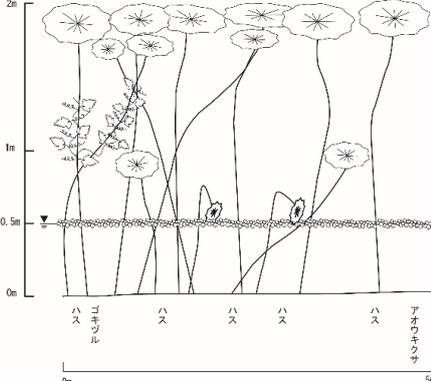
⑥ 水田（ハス畑）（既存ハス畑）

第1工区東側の既存のハス畑であり、他の植物とのバランスも踏まえながら保全、維持管理している場所（麻機遊水地保全活用推進協議会 2024⁽¹³⁾）である。

調査地点の本年度（令和7（2025）年度）の植生は既往調査（令和2（2020）年度）と同じ「水田（ハス畑）」であった。草刈りやヒメガマの抜き取りなどの維持管理が行われているため、本群落の種組成は極めて単純な状態で維持されている。

表 3.1.24 ハス畑の保全管理：水田（ハス畑）の概要（麻機遊水地第1工区）

【水田（ハス畑）】（35.0227953° , 138.3959636° ）

概要		群落組成概要（令和7（2025）年度）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ハスが優占する池沼に成立する抽水性の多年生草本群落 ・植被率は100%、群落高は2.0m、出現種数は3種 ・優占種以外の構成種はアオウキクサ、ゴキヅル ・ハス畑として保全されている場所に成立 		階層	優占種	高さ (m)	植被率
		I 高木層			
		II 亜高木層			
		III 低木層			
		IV 草本層	ハス	0~2.0	100
階層	被度・群度	和名（代表種）			
IV	5・5	ハス			
	5・5	アオウキクサ			
	1・1	ゴキヅル			
(R7 (2025) /9/25 調査)					
 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 撮影)</p>		断面模式図			
		 <p style="text-align: center;">(R7 (2025) /9/25 調査)</p>			

⁽¹³⁾ 麻機遊水地保全活用推進協議会（2024）麻機遊水地保全活用行動計画（改訂2版）。